

音楽科学習指導案

1 題材名 曲想を生かして、表情豊かに歌おう

2 教材名 「サンタルチア」(歌唱)

3 題材の目標

(1)知識及び技能

「サンタルチア」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「サンタルチア」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。

(2)思考力、判断力、表現力等

「サンタルチア」の旋律、速度、リズム、強弱、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「サンタルチア」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。

(3)学びに向かう力、人間性等

「サンタルチア」の曲想や歌詞が表す情景と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「音色」)

4 指導にあたって

(1)題材について

本題材では、旋律や音色の特徴を捉え、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想や歌詞の情景、心情などに関わらせ、歌唱表現を工夫する。曲想や歌詞の内容と音楽の構造との関わりを感じ取りながら、どのように表現したいか思いや意図をもち、創意工夫を生かした歌い方を身に付ける中で、音楽を工夫して表現するよさを実感させていきたいと考える。

(2)生徒の実態

(3)本時の指導について

本時は、「サンタルチア」の第2時である。第1時で理解した音楽の構造と曲想や情景などとの関わりをもとに、歌い方を創意工夫する。個人練習では、旋律や強弱、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、iPadの音源に合わせて何度も練習を繰り返す。その中で、どのような歌い方がふさわしいかを考えて試行錯誤したり、仲間の意見を取り入れて自分の考えを深めたりすることで、情景や思いを表現するためにはどのような歌い方がふさわしいのか、思いや意図をもって活動できるようにしていく。

5 研究内容との関連

研究内容Ⅰ 単位時間の役割を明確にした題材指導計画や題材構造図の作成

- ・題材における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

本題材の学習において、付けたい力を「曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び背景との関わりについて理解するとともに、知覚・感受したことを生かしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する力」とし、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素に「旋律」と「音色」を位置付けた。

研究内容Ⅱ 実態分析からの授業改善

- ・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

題材の導入では、範唱を聴かせて感想を交流することで、曲全体のイメージや自分の歌唱表現の見通しをもたせる。本時の導入では、前時に確かめた表現したい内容を復習することで、どのような工夫をしていくか願いや見通しをもてるようにする。

- ・課題追求の視点や方法を明確にした個人追求

音楽を形づくっている要素を板書や拡大楽譜に位置付け、表現の手掛かりとする視点として明確にする。旋律は音符を線でつないで可視化する、リズム（拍子感）は手で拍を打ったり、指揮をしたりするなどの確認方法を用いて理解を促す。また、考える箇所を絞ることで、より良い表現方法を追求したり、交流で深めたりすることができるようにする。

研究内容Ⅲ 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

- ・1単位時間の評価の位置付けと工夫（自己評価、他者評価、教師評価）

個人練習の前後に自分の歌声の録音を聴いて自己評価を行う場を設定することで、客観的に自分の技能や表現を捉え、その後の創意工夫に繋げる。前時の録音と範唱、練習後の録音とを聴き比べることは、自己の変容に気づくことにつながると考える。

- ・学習を振り返る活動の工夫

終末では、どのような思いや意図をもって歌唱表現を工夫することができたのか、自分の考えについて本時の学習を振り返る時間を設ける。拡大楽譜への書き込みや練習中のメモを示しながら、自分の思いや意図について明確に振り返ることができるようにしていく。

6 本時のねらい

旋律、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞に込められた情景や思いを伝えるにはどのように歌えばよいかについて思いや意図をもつ。

【思考・判断・表現】

7 題材構造図（全3時間） 「曲想を生かして、表情豊かに歌おう」 教材：「サンタルチア」（歌唱）

《思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」「音色」》

題材名：「曲想の変化を生かして、表情豊かに歌おう」

教材：「Joyful, Joyful」（歌唱）

生徒の意識：強弱や旋律、リズムの特徴が変わることによって、曲想も大きく変化することが分かった。休符や発音、息の使い方などを意識して、変化が出るように歌うことができたので、他の曲でも、曲想に合った歌い方を工夫していきたい。

【導入の生徒の意識】

カンツォーネを聴いて、日本の歌とは違った雰囲気や、壮大な歌い方、特徴的な発音の仕方などが特徴的でいいと思った。自分も、お手本のようにのびのびと歌えるようになりたい。

第1時「サンタルチア」（知識）

ねらい 「サンタルチア」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受するとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。

生徒の意識：3拍子の流れや上がったり下がったりする旋律の繰り返しから、波や進んでいく舟が想像できた。中間～後半からは上下が大きくなり、強弱も強くなってフェルマータもあるので、サンタルチアに願う様子や、広々としたナポリ湾の感じが伝わってくるのが分かった。

第2時（本時）「サンタルチア」（思考・判断・表現）

ねらい 旋律、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞に込められた情景や思いを伝えるにはどのように歌えばよいかについて思いや意図をもつ。

生徒の意識：前半は、mpを意識して、優しい声でナポリ湾の美しさや海の穏やかさを出したい。Aさんの工夫を聞いて、低い音で小さく上下するのを生かして、なめらかに繋げるように歌うことも大切だと思った。後半のfは、大きな旋律の上下を意識して力強く歌うことで、サンタルチアへの強い願いを表す。遠くまで響くように伸びやかな声を出していきたい。

第3時「サンタルチア」（技能）

ねらい 旋律、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、どのように歌うかについて思いや意図をもつとともに、創意工夫に必要な技能を身に付ける。

生徒の意識：前半と後半で、音の上がり下がり幅を意識して、違いを出すことができた。強弱の変化もつけて、息の吸い方やお腹の支えを意識したことで、遠くまで響く声を出して歌うことができた。Bさんは、1回目の「サンタルチア」をささやくような声だけど1つ1つはしっかりと歌っていて、語りかける感じが伝わってきたのですごいと思った。

【出口の生徒の意識】

旋律に注目して考えることで、強弱やリズムの生かし方や曲想との関わりが分かった。お腹や息の流れを意識して発音や発声を工夫することで、これらを生かした歌い方を工夫することができた。これからも、音楽の特徴と曲想との関わり感じ取りながら、歌ったり聴いたりしていきたい。

題材名：「歌詞と旋律との関わりを考えよう」

教材：「My Melody」（創作）、「メッセージ」（歌唱）

生徒の意識：「サンタルチア」で旋律を手掛かりにして表現の工夫を考えてきたが、日本語の歌詞のときには言葉の抑揚とも大きな関わりがあることが分かった。これからの合唱曲などでも、言葉の発音やまとまりを大切にして、旋律の上がり下がりを生かした歌い方を工夫していきたい。

8 題材指導計画 《思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」「音色」》

時 材	教材	ねらい	学習活動	評価
1	サンタルチア	「サンタルチア」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、ことと知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。	1. カンツォーネについてと歌詞の意味を理解する。 2. 範唱を聴き、曲想を感じ取りたり情景を想像したりする。 3. 曲想を感じ取りながら、範唱に合わせて歌う。 4. 曲想や情景を想像させる要因となる音楽の特徴を考える。 5. 音楽の特徴を意識しながら、範唱に合わせて歌う。 6. 学習プリントに本時の振り返りを記入する。	〇知(観察) (ワークシート) 〇思(観察) (ワークシート)
2	サンタルチア(本時)	旋律、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞に込められた情景や思いを伝え、かについて思いや意図をもつ。	1. 前時の振り返りを交流する。 2. 範唱に合わせて歌う。 3. 音源を聴きながら、個人で練習をする。 4. ペアやグループで歌い方について考えたことを交流する。 5. 交流したことをもとに、個人やペアで練習をする。 6. まどめの歌唱をし、学習プリントに本時の振り返りを記入する。	〇思(観察) (ワークシート) 〇技(観察) (演奏聴取)
3	サンタルチア	旋律、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、どのよう歌うかについて思いや意図をもつとともに、創意工夫に必要な技能を身に付ける。	1. 本時の課題を確認する。 2. 前時までの学習プリントを見ながら、歌の練習をする。 3. 仲間演奏を聴き、曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取る。 4. 学習プリントに振り返りを記入する。 5. 記入した振り返りについて発表する。	〇技(観察) (演奏聴取) 〇思(観察) (ワークシート)

9 本時の展開(2/3)

時間

学習内容

00 1 前時の振り返りを交流する。

- ・前半は、ゆったりと波が揺れる様子を出したい。
- ・中間の「ヴェニテ ア ラジレ」の部分は、「来てください!」と力強く伝えるようにしたい。
- ・「サンタルチア」は弱くても願う感じを出したいけれど、どのように歌えばよいのだろう。

情景や思いが伝わるように、旋律・強弱・リズムを生かした歌い方を考えよう。

03 2 発音や発声の仕方とその効果について、様々な範唱や教師の実演を真似したり、既習曲の歌い方を復習したりしながら、歌い方の見通しをもつ。「音色」

【歌い方のイメージ・表現】

ささやくように、か細い声、消えるように、丸く、やわらかく、なめらかに、遠くへ、太い声、勢いをつけて、力強く、短く切る、弾ませる、粘るように、はっきり

【発音や発声の技能】

正しい姿勢、目線、口の中の使い方、息の吸い方、子音を目立たせる、母音をのばす、発音に合わせたアクセントの位置

10 3 音源を聴きながら、個人で練習をする。

- ステップ1：範唱または伴奏に合わせて通して歌う。
ステップ2：選んだ部分だけを練習しながら、歌い方を考える。
ステップ3：練習した部分を録音して、聴いてみる。
ステップ2⇄3を繰り返す、ステップ1に戻り他の部分を考える。

25 4 工夫したい箇所ごとに、考えたことを交流する。

- ・3拍子にのって、上がり下がりをなめらかに歌うと、波が揺れる様子が伝わると思う。
- ・「ヴェ」「ニ」「テア」は、一気に高い音になるので、1つずつはっきりと強調して歌うことで、力強さが出るな。
- ・「サンタルチア」の「チア」はmpだけど、一気に上がるから、「チ〜ア」と勢いをつけて歌おう。

35 5 交流したことをもとに、再度個人で練習をする。

- ・「ヴェ」「ニ」「テア」は、はっきり歌うけど、繋げたほうが広がる感じがしてよさそう。短く切らないようにしよう。
- ・最後の「タ」のフェルマータは、Aさんのようにもう少し長くしたほうが、fの伸びやかさがでると思うので真似しよう。

40 6 まとめの歌唱をし、ワークシートに本時の振り返りを記入する。

前半は、mpを意識して、優しい声でナポリ湾の美しさや海の穏やかさを出したい。Aさんの工夫を聞いて、低い音で小さく上下するのを生かして、なめらかに繋げるように歌うことも大切だと思った。後半のfは、高い音とアクセントを意識して力強く歌うことで、サンタルチアへの強い願いを表す。遠くまで響くように伸びやかな声を出していきたい。

研究内容とのかかわりや指導援助等

曲想と音楽の構造との関わりを確かめ、それらを表現するために必要な歌い方を考えることについて、視点や見通しをもたせる。

〈思考・判断のよりどころとなる主な音楽をつくっている要素：「旋律」、「音色」〉

予想されるつまずき

- ・具体的な歌い方が分からない、身に付いていない。
- ・歌い方の違いによる感じ方を実感できていない。

☆C⇒Bへの手立て

様々な発音や発声の仕方を提示し、歌い方の工夫の幅を広げる。

☆前時に書き込んだ楽譜や歌詞の内容をもとに、どの歌い方が使えそうかを考えさせる。

・iPadで範唱と伴奏の音源を配布し、個別で練習ができるようにする。

☆教師と一緒に歌いながら、様々な発音や発声の仕方を試し、どの歌い方がふさわしいかを選択させる。

・「fは強く」など捉えた音楽の特徴のみになってしまう生徒には、「何を伝えるためか」「どのような声が合うか」と問い、具体的な歌い方につなげる。

・工夫したい箇所ごとにブースを設定し、自分で交流したい場所を選択できるようにする。

・説明と実演を混ぜながら交流するよう指導する。

・「なぜその歌い方にしたのか」と問い、音楽の特徴や曲想、歌詞などに関わりを意識させる。

評価規準

(観察・発言・ワークシート)

(○思考・判断・表現)

旋律、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞に込められた情景や思いを伝えるにはどのように歌えばよいかについて思いや意図をもっている。

教科における生徒の実態

本校の生徒は、題材や課題に対して、前向きに取り組む、意欲的に制作していく姿が見られる。

しかし、制作に取り組む過程で、自分の表現したいことが曖昧になってしまう姿や、主題に対してさらに粘り強く取り組むことに弱さの見られる姿もある。

研究に関わる実践

研究内容1 指導計画の作成

1年生「よくみて描く」では、題材を通して、育成を目指す資質・能力や、働かせる見方・考え方を整理し、指導計画に位置付けた。それらを必要に応じて活用し、主体的な学びの姿につながるよう、線の強弱・濃淡・明暗・立体感など、制作に必要な造形要素を、板書や掲示などに示した。

また、制作中の互いの作品を鑑賞し合い交流する中で、自分と同じ表現方法に挑戦している仲間の作品を見つけて参考にしたり、自分が乗り越えたい課題を達成している作品からヒントを得たりするなどして、自分の考えを確かにした。他者の表現方法を取り入れるために、相互鑑賞や対話的な学びの場を指導計画に位置付けた。特に、相互鑑賞の場面では、互いの思いや表現を尊重することを大切にしてきた。

研究内容2 授業改善

2年生「視点の冒険」では、導入における資料作品の鑑賞を行った。形や色彩を根拠にして、気づいたことをワークシートに書き出し、全体で交流した。見上げたり、見下ろしたり、目線を変えることによって感じられる視点の面白さや、奥行・立体感を表す描き方などについての気づきを共有した。全体で共有した気づきを、課題解決の見通しの学びのポイントとして提示した。授業の始めに前時までの制作の交流を取り入れたり、iPadを活用して資料を共有したりするなど、個別最適な学びの土台づくりを心がけた。

「身の回りの美術」というテーマで、身近にある「美しさ」や「よさ」を各自で見つけ、学級内で交流した。いつも見ているものをいつもと違った視点でとらえていくことや、自分以外の人の見方や考え方に触れることや他者の捉え方を尊重する

態度を目指した。

研究内容3 評価の工夫

授業の終末には、制作など学習において、生徒自身が工夫したことや改善したことを、言語化する活動を位置付けた。毎時間の学びの足跡を蓄積し、自己の変容を実感できる自己評価する場とした。このように、どの学年においても、iPadを活用することで、制作の過程を写真に記録したり、言葉や図なども併用したりしながら、本時を振り返り、まとめる活動を取り入れ、主題を表現するための工夫や次回挑戦したいことを書くようにした。

実践を終えた成果

題材を通して主題を確認することや、対話的な学びを位置付けることで、本題材で自分が表現したい主題や自己課題を確認しながら制作を進めることができた。iPadを活用し、毎時間の制作や学びの記録を視覚的に残すことができ、自己の変容を実感させることができた。写真などで制作の過程を記録し、自己の変容を視覚的にとらえられることで、次時への意識や意欲にもつながった。発言できなかった生徒の意見も共有することができた。

また、仲間と作品の相互鑑賞をすることで、新たな見方や捉え方に気づかせることができた。

今後の方向

制作を進めていく中で、より簡易な方法を選択するなど、主題が表現と離れてしまう姿があったため、導入時に自分の主題と表現方法との関連を考えさせる場を位置付け、制作の見通しをもてるようにしていく。また、自己評価が単なる感想になってしまうこともあった。制作の見通しや変容などに関わらせて書けているものを紹介し、自分の主題と照らし合わせながら振り返ることができるよう目指していく。

美術科指導案

1 題材名 「じっくり見ると…見えてくる!？」

～特徴をとらえ、形や質感からイメージする

2 題材の目標

(1) 知識及び技能

- ・身近にあるものをよく見て、絵や言葉でスケッチをするなどしてその特徴を捉えたり、そこから何かに見立てたり、全体のイメージを捉えたりすることができる。
- ・意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・身近なものを見つめ感じ取った形や色彩、質感の特徴や美しさなどを基に主題を生み出すことができる。
- ・全体と部分などの関係を考え、構成を工夫し、心豊かに構想を練ることができる。
- ・造形的なよさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方・感じ方を広げることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・創造活動の喜びを味わい、身近なものの特徴や美しさをもとに、楽しみながら構想を練ったり工夫したりする表現の学習に取り組むことができる。
- ・仲間の作品からよさや美しさを感じ取り、心情や表現の意図や工夫について考えるなど、見方・感じ方を広げながら鑑賞したり、自分の制作に生かそうしたりすることができる。

3 指導にあたって

(1) 題材について

私たちの身の回りには、バーチャルな視覚情報があふれ、生徒が本物に触れる機会は減ってきている。本物に触れる経験をさせ、その感動を表現に結び付けさせていく。また、再現的な表現への欲求が高まる時期なので、基礎的な見方や技能を身に付け自分なりの表し方を工夫しながら表現することの楽しさを感じさせていく。本題材では、身の回りにあるものを改めて何度もじっくり見ることで、形や色彩、質感などの視点をもって観察することを大切にする。実際に実物（モチーフ）を手に取り、観察を繰り返すことで、何気なく見ていた時には気づかなかった複雑な形や色彩や質感を主体的に発見させていく。また、感じ取った特徴から、発想を広げて意外なものを組み合わせたり、一部を変形させたり見立てたりして、鑑賞する人を楽しませたり驚かせたりしようという視点をもって制作を進め、構想を練りながら形や色彩を工夫する活動を通して、表現することの楽しさを実感させる。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

本時は、実物(モチーフ)から感じ取った形や色彩、質感をもとに、実物にそっくりにリアルさを追求する一方で、見る人を楽しませるには、自分が想像した部分をどうしていかを構想する学習である。既習事項を想起させたり、造形要素に着目できる資料を提示したりし、本時に必要な知識技能を明確にすることで、自分の主題と表現方法との関連性に気づかせ、自分の表現を追求する姿を目指す。また、自分の考えを確かにしたり、他者の視点も取り入れたりするために、交流を位置付け、主体的・対話的な学びにつなげていく。

4 研究内容との関連

(1) 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

・題材におけるつけたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

題材との出会いから終末の出口の鑑賞までの生徒の意識を想定し、単元を貫く課題を設定する。評価規準と照らし合わせ、つけたい力をもとに単位時間の役割を明確にし、働かせたい見方・考え方を題材構造図などに位置付ける。

(2) 実態分析からの授業改善

・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

制作に取り組む中で、自分の思いやイメージを表現することが苦手な生徒の姿が見られるという実態から、表現するための発想や構想を練り上げていくための手立てとなるものを選択できるようにしていく。毎時間の課題を解決するために必要な見方・考え方を「発想構想のポイント」として位置づけ、必要に応じて活用し、課題解決の足がかりとなるようにしていく。

・思考の深まりを生む意図的な交流活動

構想を練り形・色彩・質感を決定していく過程では、アイディアスケッチを互いに示し、自分の思いを伝えながら再確認したり、他者の視点から気づいたことを助言したりできる場面を位置付ける。また、iPadを活用することで、ペアだけでなくグループや全体で、お互いの考えを共有したり、必要に応じて交流したりできるようにしていく。

(3) 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

・学習を振り返る活動の工夫

本時の工夫点や変容を、振り返りの視点を参考に、学習カードに記入していく。iPadに毎時間の学びについて記録し、自己の変容を実感できるようにしていく。

5 本時のねらい

実物やアイディアスケッチをもとに、形や色彩、質感などの造形要素に着目し、主題を生み出していく過程で、自分なりのイメージをもって、絵や言葉でアイディアスケッチに表し、創造的な構成を工夫し構想を練り上げることができる。

【思考・判断・表現】

6 題材構造図

〈題材名〉じっくり見ると…見えてくる！？（全 12 時間）

【題材のねらい】…前文参照
【付きたい力】

身近にあるものを見つめ、形や色彩、質感などの特徴をとらえたり何かに見立てたりして主題を生み出し、構成や材料、用具を工夫して立体で表現する力。

感じ取った特徴から発想を広げて、他者を楽しませたり驚かせたりする視点で、構想を練り上げ表現する

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

【2】スケッチ ②

造形的な特徴などを基に、全体のイメージや 作風などで捉えることを理解している。

○A表現(2)

共通事項(1)ア(イ)(エ)(オ)
《観察・形・色・質感》

【4】粘土による形づくり ⑤⑥⑦

⑤具体物を観察したり、触ったりしながら、粘土の加工方法（つける、削る、切るなど）を工夫して、大まかな形を作ることができる。

●A表現(2)

共通事項(1)ア(オ)

⑥⑦

表現方法に応じて、粘土べらなどの道具の使い方を工夫して、質感や細部を意図に応じて表すことができる。

○A表現(2)

共通事項(1)ア(オ)

《形・質感 つける・削る・切る》

【5】絵の具による着色 ⑧⑨⑩⑪

⑨発想や構想をしたことなどを基に、意図に応じて身に付けた水彩絵の具の生かし方を活用し、工夫して表すことができる。

○A表現(1)ア、(2)

⑩⑪

混色や重色、筆の使い方など意図に応じて工夫して、野菜や果物の色彩や質感を表現することができる。

○A表現(1)ア、(2)

《色彩・質感/重色・混色・筆づかい》

【1】鑑賞 ①

造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。

○B(1)鑑賞ア(ア)

《形・色彩・質感 作者の工夫・意図》

【3】アイディアスケッチ ③④(本時)

③具体物をじっくり観察する中で感じ取った形や色彩、質感の特徴や美しさなどを基に、創造的な構成を工夫し、絵や立体で構想を練ることができる。

●A表現(1)ア(ア)

共通事項(1)イ(ア)

④前時のアイディアスケッチを基に、造形要素に着目しながら、全体と部分との関係性などを考えて、創造的な構成を工夫し、構想を練り上げることができる。

○A表現(1)ア

共通事項(1)イ(ア)

《形・色彩・質感

変形・付け足し・見立て》

【5】絵の具による着色 ⑧⑨⑩⑪

⑧絵の具の混色や重色、筆の使い方などを試しながら、色彩に関する創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。

○●A表現(1)ア、(2)

共通事項(1)ア(イ)

《色・質感 混色・重色・筆づかい》

【6】鑑賞 ②

完成した作品から主題について振り返り、表現の意図や工夫などについて考えることができる。また、仲間の作品から、よさや面白さ、美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めることができる。

○B鑑賞(1)ア(ア)

《形・色彩・質感 工夫・意図》

●作者の表現の意図や工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。

○改善を試みながら粘り強くいくつものアイディアを描いている。
《工夫改善》

●意図に応じて様々な表し方を試して、身に付けた粘土の加工方法や絵の具の生かし方を活用し、工夫して表しているかどうかや、意欲的に工夫しようとしている。
《工夫改善》

●制作中の鑑賞を通して、客観的な視点に立って他者の作品を見たり、自分の作品の意図を説明したりすることにより、表現したいものをより明確にしている。

●発想や構想をしたことなどを基に、制作過程を考え、調整しながら制作を進めようとしている。

○粘土による表現の特性、造形的なよさや面白さ、美しさを感じ取り、作者の表現の意図や工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。

【題材終末での生徒の意識】

モチーフをじっくり観察する中で感じた特徴から発想を広げ、形や色彩を試行錯誤しながら、主題を表現することができた。また、仲間の作品を参考にしたり、意見を交流したりする中で、鑑賞する人の視点にも立って、表現を工夫することができた。

7 題材指導計画

美術科1年 題材指導計画 【題材名】じっくり見ると…見えてくる!?

【題材の目標】		【知識・技能】		【思考・判断・表現】		【主体的に取り組む態度】		評価の場
知識・技能	評価観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	評価の場			
身近にあるものを見つめ、形や色彩、質感などの特徴を捉えたり、何かに見立てたりして主題を生み出し、構成や材料、用具を工夫して立体で表現する。	【知識・技能】 ・形や色彩、質感などが感情にもたらす効果や特徴などを基に意図を全体のイメージなどでとらえることを理解している。(知識) ・粘土や絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。(技能)	【思考・判断・表現】 ・身近なものを見つめ感じ取った形や色彩、質感の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。(発) ・作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。(鑑賞)	【主体的に取り組む態度】 ・身近ものの特徴や美しさなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。(表現) ・作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞)	主体的に取り組む態度 よさや工夫を感じ取り、表現の意図と工夫について考えるなどの見方・考え方を深める学習活動に取り組んでいる。【共通事項】	○学習プリント ・発言内容 ・交流活動 ○机間指導 ○スケッチ			
1 <導入・鑑賞> 作家の作品などから、造形的なよさや美しさ、面白さを感じ取り、表現の工夫などについて考える。	○	造形的な特徴などを基に、全体のイメージや対象の特徴を理解して、スケッチしている。【共通事項】	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。【共通事項】	改善を試みながら粘り強くいくつものアイデアを描いている。	○スケッチ (平面・立体) ・交流活動 ・机間指導			
2 <スケッチ> 身近にあるものをよく見て、様々な角度からスケッチすることを通して、対象の形や特徴を理解する。	○	表現方法に応じて、粘土べらなどの道具の使い方を工夫して、質感や細部を意図に応じて表現している。【共通事項】	自分の表現意図にあった表現方法を選択したり、試行錯誤したりしながら創意工夫している。【共通事項】	発想や構想をしたことなどを基に、制作過程を考え、調整しながら制作を進めようとしている。	○作品 ・交流活動 ・机間指導			
3 <アイデアスケッチ> 主題を基に、その特徴を捉えたり何かに見立てたりして主題を生み出す。全体と部分との関係を考えるなどして構想を練る。	○	自分の表現意図にあった表現方法を選択したり、試行錯誤したりしながら創意工夫している。【共通事項】	自分の表現意図にあった表現方法を選択したり、試行錯誤したりしながら創意工夫している。【共通事項】	発想や構想をしたことなどを基に、制作過程を考え、調整しながら制作を進めようとしている。	○作品 ・机間指導 ・交流活動			
5 <粘土による形づくり> 粘土の特徴を生かして、加工方法や道具の使い方を工夫して、質感や細部を意図に応じて表現する。	○	主題について振り返り、表現の意図や工夫などについて考えた、仲間の作品から、よさや面白さ、美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めたりしている。	主題について振り返り、表現の意図や工夫などについて考えた、仲間の作品から、よさや面白さ、美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めたりしている。	良さや工夫を感じ取り、表現の意図と工夫について考えるなどの見方・考え方を深める学習活動に取り組んでいる。	○学習プリント ・発言内容 ・交流活動			
8 <絵の具による着色> 意図に応じて様々な表し方を試し、身に付けた水彩絵の具の技法を活用し、色彩や質感を工夫して表現する。	○							
12 <鑑賞> 互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について考える。	○							

8 本時の展開(4/12)

時間

学習内容

00

1 前時を振り返り、本時の活動を知る。

○前時までの制作について、相手に伝えることで自分自身の学習を想起する。

○発想構想のポイントを確認する

変化

むく・やぶる・
切るなど

組み合わせ

意外なものを
似たものを

見立てる

似ている
連想する

その他

特徴から
相手に など

04

課題

形・色彩・質感を根拠に、

イメージしたことを、アイディアスケッチに表そう。

05

2 課題解決にむけて、見通しをもつ。

○「発想構想のポイント」など、課題解決にむけての手段を確認し見通しをもつ。

わたしは、今のところ**組み合わせ**を使って考えています。意外なものを組み合わせ、驚きがあるようなものにしていきたいです。

08

3 制作する

○実物から感じ取ったことをもとに、ワークシートに記入しながら構想を練る。

実物から感じ取ったことをもとに、図や言葉でアイディアスケッチを描く。(前時からの続き)

形・色彩・質感・スケッチ(根拠)

ピーマン 緑・つや・まとまりのある形

↓
組み合わせ・**変化**を使って考えてみよう

↓
つやのある質感が変化するとおもしろそう。まとまり形を一つだけ、**変化**させてみようかな。

25

4 相互鑑賞及び自由交流をする

○聞いてみたいことなど、必要に応じて交流したい相手と交流する。
制作を続けたい場合はそのまま制作する。

・〇〇さんの、アディアは自分が考えたいイメージと近いな。相談して、何か新しいアイディアにつなげたいな。

・みんな、こんな風に考えているんだなあ。私は、変化で考えたけど、変化と見立てを合わせて考えてみるのもよさそう。早速、試してみよう。

・私は、自分のイメージがまとまってきたので、このままアイディアスケッチを続けて、イメージをまとめていこう。
意外な組み合わせをしたいな。見た人が楽しんでくれるといいな。

45

5 学習を振り返る活動

○アイディアスケッチやイメージ、主題や見通しなど、制作の振り返りをする

○本時のまとめを書く

ピーマンのつやのある質感とほこしたまとまりのある形から、**組み合わせ**と**変化**で考えました。一つのまとまりの割れ目から、小さいピーマンがのぞいているイメージでつくりたいです。見た人に、驚きやかわいらしさが伝わるということです。

研究内容とのかかわりや指導援助等

・自分が選んだ実物(モチーフ)の特徴や前時までに考えたことを確認し、前時までの自分の学びを想起する。

《実物の特徴 形・色彩・質感》

・参考資料から、本時の課題に迫るために必要な手立てを全体で確認する。

・発想構想のポイントとして、課題解決の手立てとして使えるようにする。

・本時の見通しをもてるように、作品や発想構想の仕方の例を掲示したり、資料として用意したりする。

・課題解決に向けて、本時、どの発想構想のポイントをてがかりにして取り組むのか立場を明らかにし、制作にとりかかれるよう見通しをもつ。

《実物の特徴 変形・つけたし・見立て》

予想されるつまずき

・発想のきっかけがつかめない

・イメージが広がらない

・立体⇔平面でイメージすることが困難

☆C⇒B への手立て

☆提示した作品資料やポイントを板書や資料に位置付ける

☆資料を iPad の資料箱に準備し、必要に応じて見られるようにする。

☆立体をイメージしにくい生徒には、粘土で形を作り、アイディアスケッチを描けるようにする。

アイディアスケッチ

絵や言葉でかき込む。

消さない。(加える、新たに)

時間をあけて、...

仲間との交流や作品を参考に。

どんどん手を動かしてかいてみる。

☆机間指導しながら、

必要あれば全体への指導を入れる。

《工夫改善(試行錯誤)》

評価規準(アイディアスケッチ・振り返り)

(○思考・判断・表現)

A表現(1) A共通事項(1)・イ(A)

実物の形や色彩の特徴や美しさや質感を根拠に、**変化**、**組み合わせ**、**見立て**などから、自分なりのイメージを、絵や言葉でアイディアスケッチに表し、構想を練ることができる。

自己の変容を実感できるよう、写真や言葉でまとめ、本時の学びを記録する。

《工夫・意図》

保健体育科指導案

1 単元名 球技 ゴール型 「バスケットボール」

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。
- ・安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康や安全を確保することができる。

3 指導にあたって

(1) 単元について

球技は、個人の能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。ゴール型の種目であるバスケットボールは、一定の時間内にドリブルやパスなどでボールを運び、シュートしたり防いだりして得点を争うところに楽しさがあると考えられる。第2学年では、パスやドリブル、シュートなどのボール操作の基本、空いている場所に走り込む動きやボールを持っている相手に対する基本的な守り方を学習している。本単元では、「ゴール前の空間を作りだして攻める」ことに重点を置いて、ボールを持っている時と持たない時、自分のポジションや相手チームの特徴に応じてチームで作戦を立て、その作戦に応じた技能で攻防を展開できるようにしていく。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

前時は、カットインとはどのような戦術なのかを理解するために、ICTを用いて動き方をイメージし、動き方のパターンをいくつか提案したうえで実際にプレイした。

本時は、実際に試合の中で「いつ、どこに、どのように」カットインするのか、見方・考え方を働かせ、その時に「ゴール前の空間」という視点で話し合ったり作戦を立てたりして、試合でできるようにしていく。カットインの動きはチームでの連携した動きが必要なので、前半練習でポジションや役割をある程度決めた約束練習を行い、運動が苦手な生徒もカットインの動きが理解できるようにする。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構想図の作成

・学習改善につなげる評価を適切に位置付けた単元及び単位時間の指導計画の作成

本単元で目指す「ゴール前での空間を作りだす動き」を身に付けるために、「ボールを持たないときの動き」に着目して授業を展開していく。「ゴール前に空間がない場面で、どのように攻めたらよいのか」という問いを中心に、空間を作りだす必要性を生徒に考えさせてから単元のねらいに迫っていけるようにする。

また、ボール操作に苦手意識をもった生徒が多いため、毎時間の冒頭にアップ活動としてボールハンドリングの練習（基本のボール操作、パス、シュート）を位置付けることで、ボールの扱いに慣れることができるようにする。

研究内容2 実態分析からの授業改善

・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

導入では、iPadで撮影した試合の映像を教師が視点を明確にしながら提示することで、生徒が本時目指す姿をイメージしやすくする。「誰が」「いつ」「どこに」など、過去に提示した視点をホワイトボードに残していくことによって、チーム課題や個人課題の選択につなげ、プレイ中や話し合いの中でも生徒がその視点や言葉を大切にできるようにしていく。

・思考の深まりを生む意図的な交流活動

各チームの人数を6人とし、役割分担をして一人一人がチームの中で責任を果たせるようにする。毎時間、チーム計画会・反省会を行い、チームとしての課題は達成されたのか、次回の課題は何なのかをチームで考えていけるようにする。また、iPadを活用してポジションをボードで確認したり、過去の映像から課題化したりできるようにする。

研究内容3 自己の変容と学びを実感させるための評価の工夫

・1単位時間の評価の位置付けと工夫（自己評価、他者評価、教師評価）

毎時間の練習ゲームをiPadで撮影し、チームの中で振り返る場を設ける。本時のチームの動き方はどうだったかを全員で伝え合うようにする。また、チームの動きに加えて自分自身の動き方やボール操作、声掛けはどうだったのかを自己評価していく。

5 本時のねらい

3対2の数的優位のある練習ゲームで、空間を見つけたり作ったりすることを通して、ゴール前の空間へのカットインプレイからシュートを放つことができる。

【知識・技能】

6 単元構造図

【単元のねらい】

- (運動面)安定したボール操作と空間を作りだす動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。
- (集団面)チームの課題解決に向けて考えを仲間と交流し、互いに教え合いながら活動することができる。

【単元で身に付けたい資質・能力】

<知識及び技能>

- ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。
- ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することができる。

<思考力・判断力・表現力等>

- ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康や安全を確保しながら活動することができる。

Ⅲ：高めた技能を発揮する場

【第11・12時：最終リーグ戦・振り返り】<知識・技能><思考・判断・表現>

- 安定したボール操作や空間を作りだすなどの動きにより、ゴール前への侵入などから攻防できる。

空間を作りだすために、ボールを持っていないときにどのように動くのかを考えて、相手ディフェンスにフェイントをかけた。左右に振ったりしてよく動くことができた。チームの話し合いでは、作戦を立てる時に仲間と意見が割れることもあったけど、お互いに納得いくまで話したり聞いたりできたからよかった。

Ⅱ：技能を高める場

【第9・10時：課題別練習】<知識・技能>

- 自分やチームの課題に応じた練習に取り組み、技能を高めることができる。

ゴール前に空間があるときにカットインの動きはできるようになったけど、そこへのパスがうまくかみ合わない。走り込んでいる仲間が受け取って操作しやすいように、バウンスパスやフロートパスなどのパスの工夫と使い分けを意識する。

【第7・8時：中間リーグ戦】<思考・判断・表現><主体的に学習に取り組む態度>

- 自チームや相手チームの特徴を捉えて作戦を立て、作戦に応じた技能でプレイすることができる。

トップの人がボールを持った時に、すぐに判断して走り込んでカットインできた。自分がボールを持った時、周りを見るのが難しくパスが出せない。チームでパターンを決めると動きやすくなった。○○チームは△△さんがトップの位置にいる時にみんなに指示を出している。その時のディフェンスを徹底したい。

【第4・5(本時)・6時：戦術の理解と実践(カットイン)】<知識・技能>

- 3対3の練習ゲームで、既習事項をもとに仲間と動き方を確かめながら攻防することを通して、ゴール前の空間を作りだしてカットインプレイでゴール前にボールを運ぶことができる。

ゴール前に誰もいないことに気づき、相手ディフェンスの後ろからカットインできた。ディフェンスをかわすために、フェイントをかけた。常に広い視野を保ったりすることが大切だと思った。

Ⅰ：単元の見通しをもつ場

【第2・3時：既習事項の確認・定着(マンツーマンディフェンス)】<知識・技能>

- 自分の位置や向きを考えながらマンツーマンディフェンスで守ったり、リバウンドやインターセプトから速攻でゴール前にボールを運んだりすることができる。

自分のいる場所に応じてゴールとボールの間に入って守ることができた。相手の守りが固くなったので、攻めるのが難しくなった。なかなかゴール前にボールを運ぶことができないので、攻め方を工夫したい。

【第1時：オリエンテーション・試しのゲーム】<主体的に学習に取り組む態度>

- オリエンテーション、試しのゲームを通して自分に合った課題をもち、単元の見通しをもつことができる。

- ・基本的なボール操作に関する技能をより向上させて試合に活かしたい。
- ・昨年学習したディフェンスの動き方を忘れてしまっていたからチームのみんなと協力してできるようになりたい。

「単元を高く課題」安定したボール操作と空間を作りだす動きによって、ゴール前への侵入などから攻防ができる

【生徒の実態】

どの生徒も意欲的に体育の学習に取り組むことができる。特にチームでの話し合いでは、リーダーが中心となって全員の考えを大切に交流をすることができている。一方で、仲間同士でさらに高め合うための要求が少ないように感じる。仲間を信頼し、求め合いながら活動していくことのできる集団にしていく。

<1・2年次での既習事項>

パス、ドリブル、シュートなどの基本的なボール操作を学習している。速攻の動きとマンツーマンディフェンスの動きを学習している。

7 単元指導計画 全12時間 (○評定に用いる評価) ●学習改善につなげる評価)

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	授業づくりのポイント	
学習の流れ	10	準備運動（ボール操作）												・チームの課題解決に向けて考えを仲間と交流し、互いに教え合いながら活動できる集団を目指すという目標を導入で提示する。 ・チーム内での役割を明確にし、役割に応じた指導を毎時間行っていくことで、作戦などの話し合い活動や練習での教え合いが活発になるようにする。 ・ICT機器を活用して、作戦を立てたり試合の様子を撮影し振り返ったりすること、自分たちの動きを確認し、チームの作戦や技能の向上につなげられるようにする。 ・「空間」に着目し「どのようなしたら空間を作りだせるのか」「空間を見つけたらどのような攻めるのか」をボールを持つ時と持たない時で分けて考えるようにする。 ・目指す姿をホワイトボードや学習カードに示しておくことで、練習前や振り返りの場面でイメージできるようにする。
	20	健康観察												
	30	本時の課題確認												
	40	学習の振り返り・次時の確認												
	50	最終リーグ戦Ⅱ												
評価機会	知	①●			①○			②●		②○		12	学習カード、観察	
	技		①●	①○	②●	②○	③●	③○					観察、動画	
	思			①●			①○				②○		観察、学習カード	
	態					①○			②○		③○		観察、学習カード	
	知	①パスケットボールにおいて用いられる技術や戦術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げて言ったり書きだしたりしている。												
技	②練習中やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察と他者観察などの方法があることについて、具体例を挙げている。													
思	①相手をマークし、ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることができる。													
態	②守備者を引きつけて、ゴール前の空間を作りだすことができる。													
知	③味方の動きに合わせて、作戦に応じて味方が爆作しやすいパスを送ることができる。													
技	①合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善点とその理由を仲間に伝えでいる。													
思	②チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。													
態	①互いに練習相手になったり、仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。													
知	②自己や仲間の課題に応じた練習に、粘り強く取り組もうとしている。													
技	③作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。													

8 本時の展開(5/12)

時間	学習内容	研究内容とのかかわりや指導援助等
00	1 準備・アップ活動 動きながらのパス・パスを受けてからのシュート	・ボール操作についての技術ポイントをキーワード化し、常にホワイトボードに掲示したり学習カードに明記したりしておくことで、互いに教え合ったり自己の動きを振り返ったりできるようにする。
05	2 導入資料から課題をつくる。 ○前回の試合の映像を見て、ゴール前に空間を作りだしカットインする攻め方のイメージをもち、そのための動き方に関する課題をもつ。 ・いつ、どこに、どのように動けば空間を作りだせるのか。 ・空間が空いたらすぐに走り込んでいきたい。 ゴール前の空間を作りだして攻めよう。	・前回の試合の映像を「空間を作りだしている動き」と「そこにカットインする動き」という視点を与えながら確認し、個人の課題とチームの課題をイメージできるようにする。
10	3 グループ計画会でチーム課題と個人課題をもつ。 ○前回のチームの試合映像を確認しながら、チーム内でどのように空間を作りだし、どのようにカットインしていくのかを考える。 ・Aさんがここにいる時にBさんが走り込むといいね。 ・空間が空いたら大きな声で呼ぶのはどうだろう。 ・パスの仕方も工夫しないと、パスが通らなさそうだ。	・ポジションや動き方の確認をiPadのアプリを活用して行うことで、苦手意識のある生徒もイメージできるようにする。
13	4 前半練習(チーム内3対2) ○チーム内で3対2の簡易ゲームを行う。 ディフェンスは2人のうち1人がボールを保持している人を必ず守る。 ・フリーになったらゴール前の空間が空いているかどうかをすぐに確認しよう。 ・ボールを持たない人についているディフェンスの動きをよく見るとよさそうだ。 ・ボールを持っている時は、人ではなく空間にパスをしよう。	予想されるつまずき ・ゴールに向かって走り出すタイミングが分からない。 ・ディフェンスが自分をマークした時、どこに動いたらよいかわからない。
25	5 中間振り返り・作戦会議 ○良かったプレイや改善点を伝え合い、試合に向けて作戦を練る。	☆C⇒Bへの手立て ☆ゲームを止め、自分にマークがついた時、どこに動けばよいのか実際に人を動かしながら確認することで、理解できるようにする。
30	6 後半練習(3対3の試合) ○3分ハーフ1分の試合を行う。 ＜ルール＞ ・シュートが決まったり相手ボールになったりしたら、センターサークルにボールを戻し、相手チームの攻撃から試合を再開する。 ・一度の攻撃時間は20秒までとする。シュートを放ったらリセット。制限時間を超えたら相手ボール。 ・審判は試合のないチームか、チーム内の試合に出ていない生徒が行う。 ・前半と後半で選手を交代する。それ以外での選手交代は無し。 ・ゴール前には走り込むことができたが、味方と息が合わずパスを受け取れなかった。 ・空間が空いていることは認識できたが、勇気が出なかった。 ・味方が走った瞬間にその方向へパスを出すことができた。気持ちよかった。	☆「ボールを持っている時」はどこにどんなパスをするとよいのか、「ボールを持っていない時」はどこに動けばよいのか、視点を分けて問うようにする。 ☆教師が近くでタイミングを教えたり、背中を軽く押したりして「いつ」をつかめるようにする。 ・カットインからシュートに繋がったプレイをその都度価値付ける。
43	7 グループ反省会 ○映像を見たり言葉で伝え合ったりしながら試合を振り返り、本時の成果と課題を確認する。 ・Cさんが声をかけてくれたおかげで、味方がカットインした瞬間にパスを出すことができた。 ・誰かが45度の位置に来たら、誰がどう動くかの作戦を決めるといい。	・「ゴール前の空間」「カットイン」などのキーワードを用いて発言した生徒に問い返ししながら、自己やチームの動き方を振り返ることができるようにする。
47	8 全体反省会 ○本時の成果を確認し、次への課題をもつ。 ゴール前に誰もいないことに気づき、相手ディフェンスの後ろからカットインできた。ディフェンスをかわすために、フェイントをかけたり、常に広い視野を保ったりすることが大切だと思った。	評価規準(観察) (知識・技能) ○守備者を引きつけてゴール前の空間を作りだし、攻めている。

保健体育科指導案

1 単元名 武道「剣道」

2 単元の目標

(1)知識及び技能

・相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすることができる。

(2)思考力・判断力・表現力等

・攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。

(3)学びに向かう力、人間性等

・武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保することができる。

3 指導にあたって

(1)単元について

武道の授業では、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることを第1学年及び第2学年で学習する。

本単元では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすることに重点を置いて指導していく。

(2)本時の指導について

前時では互角稽古の時に、相手と接近した状況が多くあることに着目し、隙ができた面や胴を退きながら打つ基本的な動作を指導した。本時では、自らしかけ、相手の隙を作る駆け引きができるようにしたい。そのために、前時と本時をユニットと捉え同じ流れで行う。互角稽古をつばぜり合いの状態からはじめる。また、技能ポイントを4つに絞り、生徒が自分の課題点をこの4つから選び、生徒同士がアドバイスし合えるように3人1組のグループで行う互角稽古を仕組んだ。

(3)生徒の実態

4 研究内容との関連

(1)単位時間の役割を明確にした単元構造図の作成

・生徒の実態に応じた単元及び単位時間の指導計画の作成

本単元で目指す「相手の構えを崩したり、応じたりする攻防」を身に付けるために、互角稽古の時間を多く取り入れ、そのやり方を身に付けたい力に合わせて工夫していく。

また、剣道に苦手意識のある生徒に対しては、毎時間のドリル練習で基本的な打ち込みを繰り返し行うことで少しずつ慣れていけるようにする。

(2)実態分析からの授業改善

・課題解決の見通しや学ぶ意識をもたせるための導入の工夫

課題解決の見通しをもたせるために、前時と本時を1つのユニット捉え同じ流れで行う。また、自己課題を技能ポイントから選ぶように指示し、3人1組のグループで前時の動画を見せながら、自己の課題と本時の目標を根拠をもって宣言する活動を位置付ける。その際に、課題と目標が一致していない仲間に対してアドバイスするように指導していく。

(3)自己の変容と学びを実感させるための評価の工夫

・1単位時間と評価の位置づけ(自己評価、他者評価、教師評価)

毎時間の試合(互角稽古)をipadで撮影し、自己の振り返りをもとに、計画会・反省会を仕組む。

5 本時のねらい

引き技を使って、気・剣・体の一致した打突で一本取る」ことができる。【知識・技能】

・竹刀のさばき方(打ち込み方・タイミング)

・体さばき(右足のつく位置やタイミング、残心のやり方)

3 年男子「剣道」(9 時間)

【単元のねらい】

○(運動)礼儀作法と基本動作を大切にして、「気・剣・体」の一致した打突を試合の中で発揮することができる。

●(集団)仲間の動きを見て、分析し、アドバイスをし合いながら、共に成長できる。

【単元で身に付けたい資質・能力】

<知識及び技能>

・相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩したり、応じたりするなどの攻防ができる。

<思考力・判断力・表現力>

・攻防などの自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて練習方法を選択し、自分の考えを仲間に伝えたり、学習カードにまとめたりすることができる。

<学びに向かう力、人間性等>

・自己の課題に合った実現可能な課題を設定し、その課題解決に向けて粘り強く取り組むことができる。

Ⅲ:高めた技能を発揮する場

【第 7・8 時:リーグ戦及び反省会】<知識・技能> <思考・判断・表現>

○相手の構えを崩したり、動きに応じたりして隙をとらえて打ち込むことができる。

「相手の構えを崩したり、動きに応じたりして隙をとらえて打ち込むことができた。」

Ⅱ:技能を高める場

【第 6 時:グループ課題別練習】<思考・判断・表現> <主体的に学習に取り組む態度>

○自分や仲間の課題を明確にして、その課題に合った練習を行い、相手の隙をとらえて打ち込むことができる。

「僕は、引き面が得意と分かったので、リーグ戦では、つばぜり合いの状況をあえて作って「本でも多く」本をとりたい」

【第4・5時:引き技】<知識・技能>

○相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面か胴に退きながら打つことができる。

「相手の隙を見つけて、引きながら引き面を打つことができた」

「右手を素早く顔の前にもってくると、相手は面だと思って胴に隙があるのでそこを狙って打てた」

【第3時:払い技】<知識・技能>

○相手の竹刀を払って隙をつくり、踏み込んで打ち込むことができる。

「相手の竹刀を払って隙をつくり、踏み込んで打ち込むことができたので、次はもっと早く踏み込みたい」

Ⅰ:単元の見通しをもつ場

【第2時:礼儀作法・基本打ち】<知識・技能> <主体的に学習に取り組む態度>

○基本打ちを思い切って踏み込んで、気合とともに打ち込むことができる。

「基本打ちを思い切って踏み込んで、気合とともに打ち込むことができた。」

【第 1 時:オリエンテーション】<知識・技能>

○自分にあった課題をもち、学習の見通しをもつことができる。

「単元を貫く課題」気・剣・体の一致した打突ができる。

【生徒の実態】

体育の授業に対して前向きな生徒がとても多く、仲間との関わりを大切にできる。しかし、剣道に対しての苦手意識が他の単元に比べて高いように感じる。

<中学1・2年次での既習事項>

基本打突(面・小手・胴)・連続技(面一面・小手一面・面一胴)

7 本時の展開(5/9)

時間

学習内容

00

1 準備 防具をつける 素振り

2 全体会

前回の反省から課題をつくる。

○前回の自分の動画から課題となるポイント選び課題化する。

・引くタイミングがずれてしまっている。

・右足のつく位置が違う。

・右手のあげる位置が低い。

課題

つばぜり合いから、引き技を使って攻めよう。

13

3 グループ会

(自分の目標を自分の動画を見せながら仲間に宣言する。)

4 前半練習

○約束練習(面→つばぜり合い→引き技)

ゆったりした動きから、徐々に早くできるようにする。

1・2・3のタイミング打ち込む。

1: つばぜり合いから、しかける時に相手の竹刀を下に押す。

2: 右手を顔の高さまで挙げると同時に1歩下がる。

(相手の動きを誘う。)

3: 右足をその場につくタイミングで打ち込む。

打突の瞬間に引く(足さばき)

28

5 中間研究会

○参考となる仲間の姿を見て、目指す姿や参考となる技能ポイントを再

33

確認する。

右足をつくタイミングと打突が同時にできている姿を見て、「1・2・3

のタイミング」を再確認する。

打ち込みながら引く姿を見て、相手の間合いからすぐに離脱する

6 互角稽古(グループ内、1分×6本程度)

3人1組になり、審判役をつけ、判定と周囲との交錯をさける。

正しく審判することができる。

※審判役は4本目からは動画撮影。

43

7 グループ反省会

互角稽古の3人で1人1人の得意技は何か話し合う。

8 全体反省会

本時の成果と課題を振り返り、成果を実感し次時への課題をもてる。

互角稽古を通して、引き技を使う場面が理解できて、引き技を使って攻めることができた。

研究内容とのかかわりや指導援助等

・手本となる生徒の動画を見せて、目指す姿を再確認する。

・前回の授業とつなげ、自分の課題は何か、技能ポイントから選べるように仕組む。

予想されるつまづき

左足を引いて間合いがとれていない

引きながら打つことができない。

・自分の目標をチームの仲間に宣言する。

・仲間の目標が実際の姿と一致していない場合はアドバイスする。

☆C⇒B への手立て

☆打たせる側の指導をすることで、打たせるタイミングと打ち込むタイミングを体感させ、掴ませしていく。

☆ゆっくりした動きで互いに見合うことにより、技能ポイントを体得できるようにする。

☆動きのタイミングを統一することで、生徒が見通しもったり、動きの確認をし合ったりする。

☆3人1組で技能ポイントを互いに確認し合う。

☆つばぜり合いから打ち込みまでの流れができていない時には、互角稽古を止めて技能ポイントを確認する。

☆技能ポイントを意識して打っている生徒を全体に聞こえる声で価値付ける。

例:「左足を引くタイミングと右手を上げるタイミングが一致しているね。」

「右足のつくタイミングと同時に打ち込めていて素晴らしいね。」

☆1 本が多く取れるのはどちらの技(得意技)か話し合わせる。

評価規準(観察)

(知識・技能)

つばぜり合いから、1歩下がりが右足をつくと同時に打突ができる。

保健体育科指導案

1 単元名 器械運動 跳び箱運動 「頭はね跳び」

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解できる。
- ・切り返し系や回転系の基本的な技をなめらかに行うことができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・技などの自己課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。

(3) 学びに向かう力、人間力等

- ・積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、こと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとし、健康・安全に気を配ったりできる。

3 指導にあたって

(1) 単元について

跳び箱運動は、体を回転させたり、跳んだりする運動である。多くの技があり、練習を通して挑戦し、できたと感じることに楽しさを感じることができる単元である。

頭はね跳びは、2つの局面（踏み切りから着手までの第1局面と、台の突き放しから着地までの第2局面）を一連の流れで行う特性を持っている。一方で、逆さになる経験や回転する経験は日常生活の中では少なく、「できない」からのスタートが多くなることや、できる、できないがはっきりするため、苦手意識をもちやすい単元でもある。どの生徒も仲間からの客観的な評価により「できた」喜びを実感できるよう、自分なりに感じた運動の捉えを大切にしつつ、仲間からの評価やアドバイスを活用して課題解決に向かえるようにしていく。

本種目では、「跳ねる」という動作やその感覚をつかむことが大切であり、普段は行わない動きに何度も挑戦し、自分の動きを客観的に見る活動も組み込みながら感覚づくりをしていきたい。また、補助などの学習活動を通して仲間との関わりを生み、仲間ができるようになったことに対しても喜びを感じられるようにしていく。

(2) 本時の指導について

前時で中間競技会を行い、自分の演技がどれくらいできているのか把握している。本時では、自分の中間競技会での演技を振り返り、分析してさらにダイナミックで美しい頭はね跳びができるように個人練習に取り組む時間である。

また、仲間との援助活動も大切にしながら、動きについてのアドバイスをし合う場を仕組む。そして、仲間からの言葉だけではなく、iPadを使い自分の動きを客観的に観察し、どうしたらよりよい動きができるのかを試行錯誤しながら練習に取り組めるようにすることで、自己の運動を様々な角度から捉え、改善していけるようする。

(3) 生徒の実態

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

- ・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

「すること」「みること」については、目指す姿と自分の姿を「比較」という見方が必ず必要となり、自分自身の演技を調整していくことが大切になる。「支えること」については、互いに教え合う姿において、リズムや音で伝え合うという考え方・伝え方を意識できるようにしていく。

- ・学習改善につなげる評価を適切に位置付けた単元及び単位時間の指導計画の作成

苦手意識をもった生徒が多いため、スモールステップを作り、運動ができたと感じる場面を多く仕組み、自信をもって行えるように単元を計画した。小学校での復習を始め、核となるはね動作を体感できるような時間を仕組んだ。

研究内容2 実態分析からの授業改善

- ・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

手本の映像を全体で確認しながら、技術ポイントを確認することで、抽象的なイメージだけでなく、視覚的にも本時に気を付けるべきことの見通しをもつ。

- ・思考の深まりを生む意図的な交流活動

映像を用いながら、試技が終わった後に自分の映像を見直し、改善点を自分の中で明確にしながら仲間と交流する場を設けることで、仲間と試行錯誤を繰り返しながらも活動量を確保する。

研究内容3 自己の変容と学びを実感させるための評価の工夫

- ・1 単位時間の評価の位置付け（自己評価、他者評価、教師評価）

授業の最後にテスト会を行い、グループの中で評価し合う場を設ける。本時の自分は何点の演技ができたかを他者評価で行う。また、その際に映像を残すことで、後に自分で見直し、よかった点や改善された点を自己評価していく。

5 本時のねらい

自分の課題を分析し、美しくダイナミックな頭はね跳びをできるように、自分の演技を分析しながら、練習の工夫や仲間がわかりやすいようにアドバイスをし合うことができる。

【思考・判断・表現】

6 単元構造図

【単元のねらい】

○(運動面)「くの字」姿勢から膝を伸ばした脚を跳ね上げ、強く手を突き放し、体をそって回転して着地する頭はね跳びができる。

●(集団面)仲間の演技を見て、分析し、アドバイスをしながら、共に成長できる。

【単元で身に付けたい資質・能力】

<知識及び技能>

・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解できる。

・切り返し系や回転系の基本的な技をなめらかに行うことができる。

<思考力・判断力・表現力等>

・自己課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。

<学びに向かう力、人間性等>

・積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとし、健康・安全に気を配ったりできる。

V:高めた技能を発揮する場

【第8時:最終競技会】<知識・技能> <思考・判断・表現>

○練習の成果を発揮し、美しくダイナミックな頭はね跳びができる。

仲間とアドバイスをし合いながら何度も練習を繰り返し、大きな頭はね跳びができた。

IV:技能を高める場

【第6・7時:個人課題練習】<思考・判断・表現>

○仲間とアドバイスをし合いながら、美しくダイナミックな頭はね跳びを目指すことができる。

自分の演技を分析しながら、練習の工夫やアドバイスをし合うことができた。

III:高めた技能を発揮する場

【第5時:中間競技会】<知識・技能>

○中間競技会で、これまでの練習の成果を発揮し、成果と課題を明確にすることができる。

中間競技会で自分の課題を知ること、これから目指す姿が明確となった。

II:技能を高める場

【第4時:膝の伸びた頭はね跳び】<知識・技能>

○力強い踏み切りから、膝の伸びた頭はね跳びができる。

技術ポイントを確認しながら技能を見直したら美しくできるようになった。

【第3時:「くの字」の姿勢から体をそった頭はね跳び】<知識・技能>

○台上におでこをつき、体をそった頭はね跳びができる。

腰の位置が頭のラインを経過したら跳ねることを意識したら頭はね跳びができた。

【第2時:力強い踏み切りのある頭はね跳び】<知識・技能>

○力強く踏み切り、跳び箱に両手で着手して跳ぶことができる。

腰を曲げ脚を勢いよく振り下ろすことで跳ねる感覚をつかむことができた。

I:単元の見通しをもつ場

【第1時:オリエンテーション、台上前転の復習】<主体的に学習に取り組む態度>

○自分に合った課題を理解し、単元の見通しをもつことができる。

練習をたくさんして、ダイナミックな頭はね跳びができるようになりたい。

「単元を貫く課題」 腰の位置を高くした大きな回転

【生徒の実態】

体育は好きだが跳び箱運動は嫌いと感じている生徒が多い。できないことへの苦手意識や怪我への恐怖心が嫌いと感じる理由となっている。体育の授業には意欲的に取り組み、技の習得に向けて何度も挑戦できる生徒が多い。

<小学校6学年・中学1学年次での既習事項>

台上前転・ブリッジ・三点倒立

7 本時の展開 (6/8)

時間	学 習 内 容	
00	1 準備、準備運動 ・ストレッチ ・「くの字」姿勢→三点倒立→ブリッジ練習	研究内容とのかかわりや指導援助等 ・映像だけではなく、いつでも立ち返れるように目指す姿を示しておく。 ・つまずきのある動画を用意し、どこにつまずきがあるのか分析し、技術ポイントを共有する。
03	2 全体計画会 (個人) ○前回の中間競技会での映像を見て目指す姿や、意識する技術ポイントを整理する。 ○映像分析の仕方を整理する。 技術ポイントを意識してより大きな頭はね跳びができるようになりたい。	予想されるつまずき 自分の演技の分析をするときに着目点がわからず、課題を見つけることができない。
	仲間とアドバイスをし合いながら、美しくダイナミックな頭はね跳びを目指そう。	C⇒Bへの手立て ☆第一局面と第二局面に分けることで課題が分析しやすいことを理解する。 自分の運動の様子がどの段階にあるのかを客観的に知り、上達していけるように段階表を用いる。 また、上達するためのポイントや練習方法などを示す。
08	3 グループ計画会 ○個人課題の克服に向けての技術ポイントをグループで確認し、目指す姿の共有をする。	自分の運動の様子がどの段階にあるのかを客観的に知り、上達していけるように段階表を用いる。 また、上達するためのポイントや練習方法などを示す。
10	4 前半練習 (グループ) ○「いつ」「何を」「どのように」という視点とリズムや音で、仲間へアドバイスしながら練習を行う。 ・もう少し手をつくときに、手を伸ばすといいよ。 ・手をつくときはパンっていう感覚でつくといいよ。	予想されるつまずき ・仲間の演技の問題点を見つけることができない。 ・具体的なアドバイスができない。
25	5 理解を深める中間研究会 ○工夫した練習の仕方、よりわかりやすいアドバイスをしている姿を紹介する。	☆仲間の演技のつまずきがどこにあるのかを「いつ」「何を」「どのように」という1つ1つの視点でアドバイスできるようにする。
30	6 後半練習 (課題別練習) ○自己の課題に合わせて練習場所を選択し、練習を行う。 ・跳ねるタイミングがつかめてきているから助走ありからの4段で挑戦してみよう。 ・トン(踏み切り)→ボン(着手)→シュッ(腰の上げ方)でいくといいよ。	☆同じ課題をもっている生徒同士が活動することで、より着目するところを焦点化する。 ☆腰が上がらず、はね動作ができない生徒には、補助を行う。
40	7 テスト会 ・一人1回試技を行う。(動画撮影有) ・グループ内でお互いの演技を採点し、本時の評価をし合う。	・リーダー中心にグループのみんなで評価できるようにする。 ・前回の時よりも意識したことを明確に言語化する。 ・どのような伝え方で仲間に伝えることができたのか振り返ることができるように声をかける。
45	8 個人反省会 ・自己の演技を見て本時の成果を振り返る。 ・前時の自分と比較して、よくなった点や次時の課題をまとめる。	
	9 全体反省会 ○本時の成果を振り返り、次時への課題をもつ。 仲間へアドバイスをしてもらったり、映像を確認したりしたことで、自分の課題への挑戦ができた。そして前回よりもダイナミックで大きな頭はね跳びができるようになった。また仲間の演技を分析して具体的にアドバイスをすることができた。	評価規準【思考・判断・表現】 美しくダイナミックな頭はね跳びができるように、演技を分析し、仲間がわかりやすいようにアドバイスをしている。 (観察)

技術・家庭科指導案

1 題材名 「私たちの消費生活と環境」

2 題材の目標

(1) 知識及び技能

- ・購入方法や支払い方法や、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景と
その対応、消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響につ
いて理解するとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・物資・サービスの選択や購入、自立した消費者として責任ある消費行動について、自分や家族の
消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて解決策を考え実践し、評
価・改善し、考察したことを論理的に表現することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任、消費生活と環境につ
いて、課題の解決に主体的に取り組み、実践し、振り返って改善して、生活を工夫し創造しようと
する。

3 指導にあたって

(1) 題材について

私たちが日常生活をおくるために必要な物を手に入れるには、様々な選択を行っている。ショッ
ピングモール、専門店、ネットショッピングなどの購入場所を考え、豊富な種類の中から自分の必
要条件に合った物を選択し、現金・クレジットカード、スマホ決済などの支払い方法を選択してい
る。価格が高くても必要性に迫られた場合には購入するときもある。商品を購入することが売買契
約であると理解し、消費者として自分に合った商品や購入場所、支払方法を選択をすることで、自
分や家族の生活をよりよく工夫し、持続可能な社会を創る一員になることにつながる。

本題材では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、身近な消費生活と関連付けた活動
を通して、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任、消費生活と環境についての基本的な知識・技
能を身に付け、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解し、自立した消費者
として、責任ある消費行動を考え、工夫することができることをねらいとしている。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

本時は、自分や家族の消費生活を見直しながら、模擬家族に合った商品を4つの中から選択する活動を通して、商品を選択するために重視する視点を明確にできることを目指す。そのために、模擬家族の条件を具体的に設定する。複数の商品の品質や機能、価格などを比較できるように資料を教室に提示し、仲間同士で自由に交流する場を設ける。交流活動では、どの商品を選択するか、自分が重視した視点は何かを考え、仲間の意見と比較しながら、自分の意見を見直し、より自分の意見を確認にできるようにする。また、買った後の保証（アフターサービス）にも着目し、より安心して長期間使えることで環境に配慮した生活にもつながることにも気付けるようにする。

4 研究内容との関連

(1) 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

- ・題材における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

題材の中で働かせたい見方・考え方として、「健康・快適・安全」「持続可能な社会の構築」に着目する。模擬家族や商品を複数提示することで、その家族が快適に生活できるか、などの視点で商品を選択できるようにする。

(2) 実態分析からの授業改善

- ・課題追究の視点や方法を明確にした個人追究

「普段お金を使うときに、何を考えながら商品を選んでるか。」を問い、身近な生活と関連付けて、物やサービスの選択・購入場面を想像できるようにする。複数の模擬家族を提示することで、どのようなことを考えて商品を選択するかという課題につなげる。商品を選択するときには、商品の品質や機能、安全性、価格、アフターサービス、環境にやさしいかなど、さまざまな視点で考える必要がある。ワークシートに商品を選択した視点を書き込み、自分の考えを整理する。商品選択の活動を通して、さまざまな視点を基にして選択する必要があることに気づき、別の商品選択の場面でも、それらの視点で考えて選択できる姿を目指す。

- ・思考の深まりを生む意図的な交流活動

選んだ模擬家族が異なる仲間と交流したり、同じ仲間と活動をすることで、どの視点を重視して選んだかを生徒同士で共感したり、意見を伝えたりして、より自分の重視した視点を明確にできるようにする。全体交流では、重視した視点が見方・考え方につながることを板書に位置付ける。

(3) 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

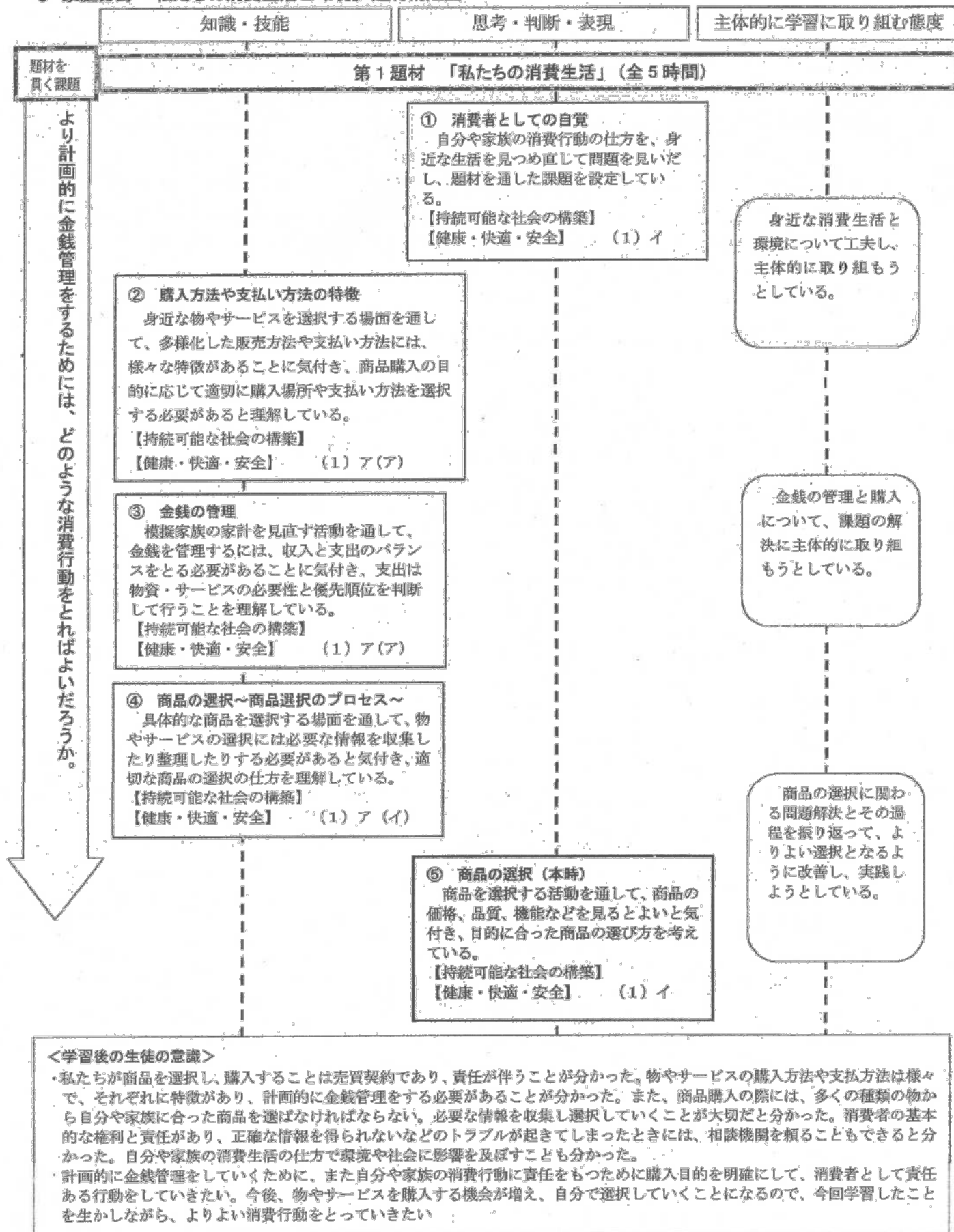
- ・学習を振り返る活動の工夫

模擬家族にとって、「手軽さ」「便利さ」「効率的」「価格」などといったキーワードを使って「快適」につなげたり、長期間使えるから環境に配慮しているかなどの「環境」の視点から「持続可能な社会の構築」につなげたりして考えられるようにする。また、「掃除機以外の商品を選ぶときに何を大切にするとよいか」を問いかけ、商品選択の視点をまとめ、自分の今後の生活につなげられるようにする。

5 本時のねらい

模擬家族に合った商品を選択する活動を通して、商品の価格や品質、機能、買った後の保証やサービス、環境への配慮のことを考えて選択すると良いことに気づき、目的に合った商品の選び方を考えることができる。【思考・判断・表現】

6 家庭分野「私たちの消費生活と環境」題材構造図



7 家庭分野 「C 消費生活・環境」 第1題材指導計画 「私たちの消費生活」(全5時間)

●…学習改善につなげる評価 ○…評定に用いる評価

時	ねらい	学習活動	働かせる見方・考え方・評価規準
① 消費者としての自覚	自分や家族の消費行動を振り返る活動を通して、よりよい家庭生活を営むためには、金銭を適切に管理する必要があることに気づき、自らの消費生活についての課題を設定することができる。	○衣服の計画的な活用・選択の学習を思い出し、「消費する」とはどのようなことなのかを知る。 ○貫く課題を設定する。 ○「ある中学生Aさんの消費行動の失敗例」から、改善すべきことは何かを考える。 自分の消費生活での課題は何だろう。 ○自らの消費生活を振り返り、「金銭の管理」、「商品の選択」、「商品購入後の行動」等の視点から課題となることはないか考える。 ○考えを交流し、題材を通して学習していきたいことを明確にする。	【持続可能な社会の構築】 【健康・快適・安全】 ＜思考・判断・表現＞● 自分や家族の消費行動の仕方を、身近な生活を見つめ直して問題を見だし、題材を通して課題を設定している。
② 購入方法・支払方法の特徴	商品をどのような方法で購入するかについて話し合う活動を通して、多様化した販売方法や支払い方法には、様々な特徴があることに気づき、適切に選択する必要があることを理解することができる。	○「衣服」、「食品」、「本」をどこで購入するか、どのように支払いをするか交流する。 購入方法や支払い方法は、どのように選択すればよいだろうか。 ○生活経験からそれぞれの販売方法の利点や問題点を考えたり、教科書から、それぞれの購入方法の特徴を調べたりする。 ○考えたこと、調べたことを交流する。 【店舗販売】【無店舗販売】 ○どのように購入方法や支払い方法を選択するとよいか話し合う。 ○学んだことをまとめる。	【持続可能な社会の構築】 【健康・快適・安全】 ＜知識・技能＞● 身近な物やサービスを選択する場面を通して、多様化した販売方法や支払い方法には、様々な特徴があることに気づき、商品購入の目的に応じて適切に購入場所や支払い方法を選択する必要があると理解している。
③ 金銭の管理	模擬家族のお金の使い方を考える活動を通して、金銭を管理するには、収入と支出のバランスをとる必要があることに気づき、支出は物やサービスの必要性和優先順位を判断して行うことを理解することができる。	○「ある家庭の1カ月のお金の使い方」を見て、気付くことを発表する。 収入以上に支出しないためには、どうすればよいだろうか。 ○支出が収入を超えないようにする方法を考える。 ○意見交流をする。 ○仲間の意見から学んだことをまとめる。	【持続可能な社会の構築】 【健康・快適・安全】 ＜知識・技能＞● 模擬家族の家計を見直す活動を通して、金銭を管理するには、収入と支出のバランスをとる必要があることに気づき、支出は物やサービスの必要性和優先順位を判断して行うことを理解している。
④ 商品の選択のプロセス	具体的な商品を選択する場面を通して、物資・サービスの選択には必要な情報を収集したり整理したりする必要があると気づき、適切な商品の選択の仕方を理解することができる。	○衣生活の学習で学んだ既製品の選び方を思い出す。 商品はどのように購入するとよいだろう。 ○買い物で失敗したことを振り返る ○意思決定のプロセスを考える。 ○「靴の購入」を意思決定のプロセスに沿ってシミュレーションする。 ○どのように意思決定したか交流する。 ○本時のまとめをする。	【持続可能な社会の構築】 【健康・快適・安全】 ＜知識・技能＞○ 具体的な商品を選択する場面を通して、物やサービスの選択には必要な情報を収集したり整理したりする必要があると気づき、適切な商品の選択の仕方を理解している。
⑤ 商品の選択(本時)	模擬家族に合った商品を選択する活動を通して、商品の価格や品質、機能、買った後の保証やサービス、環境への配慮のことを考えて選択すると良いことに気づき、目的に合った商品の選び方を考えることができる。	○商品の選択するための購入場所や支払い方法を思い出す 模擬家族に合った商品を選ぶときに、何を重視するとよいだろう。 ○どの掃除機を購入するべきか考える。 ○どのように購入すべき掃除機を決定したか交流する。 ○目的に合う品質、機能、アフターサービス、環境への配慮等の視点から購入すべき掃除機を見直す ○本時のまとめをする。	【持続可能な社会の構築】 【健康・快適・安全】 ＜思考・判断・表現＞○ 商品を選択する活動を通して、商品の価格、品質、機能などを見るとよいと気づき、目的に合った商品の選び方を考えている。

8 本時の展開(5/5)

時間	学習内容	研究内容とのかかわりや指導援助等																				
00	1 前時の内容を想起する。 ・本当に必要かを考えてから、予算などの条件を考える。 ・購入するときには、商品の値段や品質などを見るけど、買いたい物や必要条件によって、どれを選ぶかが変わるよね。 2 模擬家族を提示する。 家族構成： Aさん(中2)・父・母・妹(小5) 問題： 1週間前に普段使っている掃除機の電源が入らなくなった。掃除は週に2回くらい行っている。母が掃除をすることが多いが、平日の場合、父が朝に掃除することもある。 住まい： 一軒家(2階建て)4LDK 収入： 両親共働き・月7万円の貯金している。 家族の願い： 父：短時間で掃除ができる効率のよい物を選びたい。 母：なるべく軽くて吸引力が大きい物がよい。 購入予定時期： 2週間後までに(なるべく早く)	・前時の商品選択の場面を振り返り、どのようなことを考えて選んでいるかを想起できるようにする。 ・商品を選択する際に、品質や機能、安全性、価格などのキーワードを基にして、考える視点を明確にする。 ・模擬家族を提示することで、家族に合った物を選ぶようにする。																				
07	課題 模擬家族に合った商品を選ぶときに、何を重視するとよいだろう。 3 個人追究に取り組む。 ○提示した4つの掃除機の中から、模擬家族に合う物を選び、選んだ理由を明確にする。 <table> <tr> <td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td></tr> <tr> <td>・価格が安い</td><td>・価格が安い</td><td>・集じん容積は小さいが、自動でダストボックスに移行できる。</td><td>・自動で掃除できる</td></tr> <tr> <td>・吸込仕事率が高い</td><td>・コードレス</td><td>・紙パック式でゴミ処理が簡単。</td><td>・センサーで反応して掃除</td></tr> <tr> <td>・紙パックでゴミ処理が簡単</td><td>・吸込仕事率が高い</td><td></td><td>・コンパクト</td></tr> <tr> <td>・持ち運びがしやすい</td><td>・ゴミの集じん容積が小さい</td><td></td><td>・価格は少し高い</td></tr> </table> 4 小集団で交流する。 ・私は、②を選びました。Aさんの家族は、主に母が掃除をしているので、願いにあるように掃除機の重さを重視しました。 ・私は①で、掃除をする部屋が多いので、集じん容積が多い物を選びました。電池を気にしなくてよいコードレスでない物にしました。	①	②	③	④	・価格が安い	・価格が安い	・集じん容積は小さいが、自動でダストボックスに移行できる。	・自動で掃除できる	・吸込仕事率が高い	・コードレス	・紙パック式でゴミ処理が簡単。	・センサーで反応して掃除	・紙パックでゴミ処理が簡単	・吸込仕事率が高い		・コンパクト	・持ち運びがしやすい	・ゴミの集じん容積が小さい		・価格は少し高い	・それぞれの商品の紹介動画を見ることができ、場を設定する。 予想されるつまずき ・模擬家族の状況を考えずに選ぶとしている。 ・選んだ根拠を明確にできない。 ☆C⇒Bへの手立て ☆選ぶことが難しい生徒には、どの視点を重視して選ぶかを、仲間指導で価格、機能などのキーワードを挙げながら声をかける。
①	②	③	④																			
・価格が安い	・価格が安い	・集じん容積は小さいが、自動でダストボックスに移行できる。	・自動で掃除できる																			
・吸込仕事率が高い	・コードレス	・紙パック式でゴミ処理が簡単。	・センサーで反応して掃除																			
・紙パックでゴミ処理が簡単	・吸込仕事率が高い		・コンパクト																			
・持ち運びがしやすい	・ゴミの集じん容積が小さい		・価格は少し高い																			
23	5 全体交流をする。 ・Aさんの家族は、共働きの掃除にかかる時間も少ないので、効率よく掃除ができる物を選びました。 ・普段の生活を快適に過ごしたいし使ってすぐに壊れたら困るから、壊れたとしても修理してもらえるところで買おう。	・仲間と重視した視点や選んだ理由を明確にして交流できるように、ipadを用いて意見を共有できるようにする。《快適》																				
37	6 自分の考えを見直す。 ・商品の機能性と価格を中心に見ていたけど、〇〇さんの意見を聴いて、アフターサービスがあることで安心感につながるな。 ・自動で掃除をしてくれるから便利さを重視したけど、よく考えたら、2階建てだと運ぶ手間がかかるな。それにネットだから保証が短くて心配だからお店で直接買ったほうが安心だし故障した時も助かるのかもしれない。	・仲間が何を重視して選んだのかを自分の意見と比較しながら考えられるように、板書に視点を位置付ける。《健康・快適・安全》 ・機能や価格など以外にも、買った後の保障があるかどうかのアフターサービスにも着目できるように、「使っていて故障したらどうすればいいか。」と問いかける。																				
45	7 本時の学習を振り返る。 Aさんの家族は、母が掃除をすることが多いから、母の願いである、「なるべく軽い物」となると、③を選ぶとよいと思う。それに、③だと商品を店で直接実物を見て選ぶことができるし、買った後保証期間が確保されているからおすすめ。 自分や家族の願いに合わせて、商品の価格、品質や機能など何を重視するか考えながら、よく吟味して選びたい。	《持続可能な社会の構築》 ・商品を選ぶ時に何を重視するかをまとめられるように、「掃除機以外で選ぶときにどうするとよいか、まとめてみよう。」と問いかける。 評価規準(ワークシート) (思考・判断・表現) ○商品を選択する活動を通して、商品の価格、品質、機能などを見るとよいと気づき、目的に合った商品の選び方を考えている。																				

技術・家庭科指導案

1 題材名 「D 情報の技術」(計測・制御システム) 光センサーの活用

2 題材の目標

(1) 知識及び技能

・生活や社会で利用されている情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み、情報モラルの必要性及び、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切なプログラムの作成、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。

(2) 思考力・判断力・表現力等

・社会の発展に関わる問題を見いだして、必要な機能をもつコンテンツのプログラムや計測・制御システムの設計・製作などの課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し表現するなどして課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築を目指して情報の技術を評価し、適切に選択、管理・運用、改良、応用する力を身に付けている。

(3) 学びに向かう力、人間性等

・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとしている。

3 指導にあたって

(1) 題材について

私たちの身の回りにある電気製品には、コンピュータや通信機能が組み込まれたものが多く、それらが、人間に代わって決まった動作を繰り返したり、状況に応じて柔軟に動作を変えたりして、私たちの生活を豊かにしてくれている電気製品は身近にあふれている。

本題材では、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに、生活や社会における事象を情報の技術との関わりの視点で捉え、問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

本時では、制御教材である「アクティー君」を使って、光センサーの入力信号をもとに、プログラムを作成し制御させていく。前時の授業では、音センサーを活用したプログラムを作成した。その際、分岐プログラムを活用すると、状況に合わせてどんな時でも望んだ動きを実現できることに気付くことができた。そこで、本時は自動車のオートライトのように暗くなった時にLEDを点灯するプログラムの作成を行う。これまでの学習を生かして、光センサーの働きと分岐プログラムを活用していけば、解決できることに気付かせていく。また、プログラムを作成するだけでなく、効率的な動作にするシステム化による処理方法の最適化、無駄なプログラムを少しでも減らす経済性という見方・考え方にも着目させ考えさせていく。

4 研究内容との関連

(1) 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

- ・単元におけるつきたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

題材の中で働かせたい見方・考え方として、「社会からの要求」や「経済性」、「システム化による処理の方法等を最適化する」ことについて着目し考えさせていく。「アクティー君」を実際の自動車として見立て、センサーを活用しながら様々なコースを走らせることで、作成したプログラムの検証を行わせる。

(2) 実態分析からの授業改善

- ・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

導入において課題追究につながる動画を見させる。アクティー君のセンサーやアクチュエーターが具体的にどのように動作するとよいかを見せることで、具体的なイメージをもつとともに、全員が同じ意識で課題を共有することができ、追究への足掛かりとさせていく。

- ・思考の深まりを生む意図的な交流活動

生徒自身が本時取り組んでいくプログラムを選択することができるようにさせる。本時はアクティー君を自動車に見立てて、トンネルの中に入り暗くなるとLEDが点灯するプログラムを制作していく。トンネルの数やコースの形など様々な条件を変更することで、難易度や解決方法など変えていき、自分が解決していくコースを選択してプログラムを制作しながら課題を追究していく。

また特定の小グループを作るのではなく、選択したコース別に課題を追究していく。取り組んでいくコースをそれぞれ変えることにより、同じ課題に対して全体で追究はしていくが、難易度や使っていくプログラムなど取り組み方はそれぞれ異なってくる。これまでに学習したことを生かして同じ課題意識の仲間たちと協働して学習を行うことで、正しくプログラムが作成できているか検証したり、自分だけでは気付くことのできない修正点について考えさせたりしていく。

(3) 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

- ・学習を振り返る活動の工夫

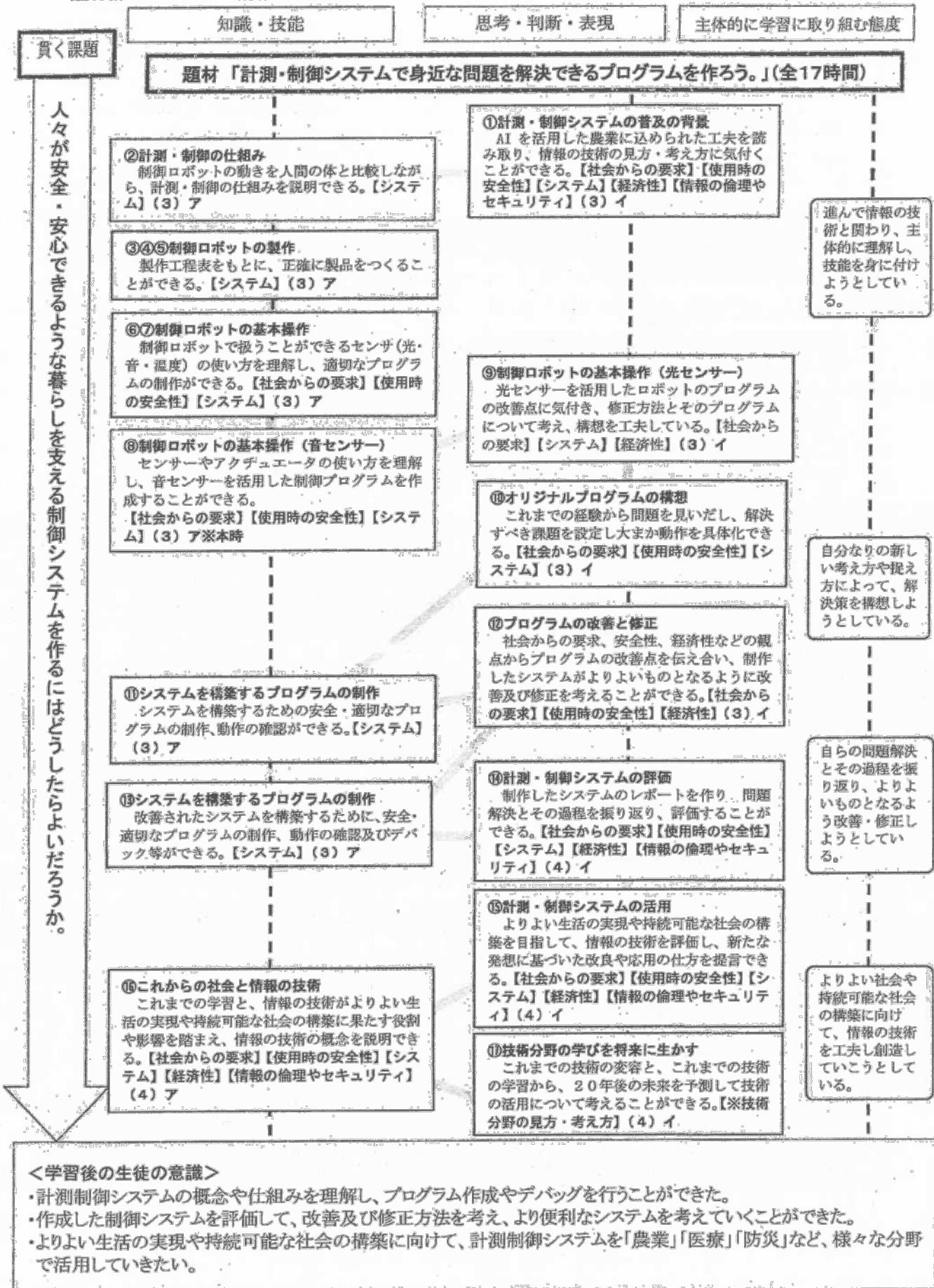
本時、働かせる見方・考え方を「生活を便利にする」、「少ないプログラムで」、「効率的、センサーによる自動化」というキーワードに置き換えることで、プログラムの作成や学習の振り返りににおいて、考える視点を明確化させる。視点を明確にすることで、不足している自分の生活や経験を補い、これからどのように学んだり生活したりすると良いか考えるようにさせる。

5 本時のねらい

光センサーやアクチュエーターを活用したプログラムを作成することを通して、ロボットのプログラムの改善点に気づき、修正方法とそのプログラムについて考え、構想を工夫している。

【思考・判断・表現】

6 題材構造図「D2 情報の技術」



7 本時の展開(9/17)

時間	学習内容	研究内容とのかかわりや指導援助等
00	1 光センサーがどんなところで活用されているか知る ・近所の街灯が暗くなると、点灯する。 ・車がトンネルに入ると、ライトが自動的につく。	・光センサーが身近な生活の中でたくさん使われていることに気付かせる。 《社会からの要求》 ☆C⇒B への手立て
	2 アクティ君の動作を動画で見て、課題化する。 トンネルに入ると点灯するアクティ君にするには、どのようなプログラムを作成すればいいだろうか。	・プログラムの動作を iPad の動画でいつでも見るができるようにすることで、プログラム作成の見通しをもつ。
08	3 光センサー使い方を覚える 4 自分が取り組んでいくプログラムを決定する。 ・まっすぐに走ってトンネルに入った時だけライトをつけるプログラムを作成しよう。 ・何個もトンネルのあるコースでスタートからゴールまでたどり着くようなプログラムを作成しよう。 ・前回学習したスイッチを使うと、どんな場所でもできるのでは。	・分岐プログラムの使い方を確認する。 《システム》 ☆いくつかのコースを廊下に作っておき、自分が取り組んでいく課題を決定させ、課題別小グループを作る。 ・実際に走らせて確かめさせる。
22	5 個人でプログラムの作成をする。 ・分岐プログラムを利用すればできそう。 ・廊下の明るさとトンネルの明るさを数値で測定して、計測値を決しないといけな。 ・実際のコースを見て、何度か計測してからプログラムを考えよう。	・予想されるつまづき ・分岐プログラムの使い方がわからない ・光センサーの使い方がわからない ☆明るさの計測値については、実際に明るい場所と暗い場所で、どれくらい計測値が違うのか比較させる。
	6 課題別に、もっと良くするにはどうすればいいか交流する。 (小グループ交流) ・明るさの設定をもう少し変えるとスムーズに動作するのは。 ・ライトの点灯と走る部分を、分けて考えればスムーズに動作できそう。	《システム》 ・グループ交流の時間を設定するのではなく、その都度作業している場所でもっとどうするとよいか交流させる。
27	7 完成したプログラムと動作の様子を iPad で撮影し、配信機能を使って全体交流をする。 ・廊下の明るさとトンネルの中の明るさは～と～くらいになるので光センサーの設定値を～にすればうまくいく。 ・このグループの動作は、自分たちのグループよりも無駄な動きがないのはなぜだろう。	☆iPad の提出BOX に動作の様子を動画で提出し、周りと比較させる。 ・配信機能を使って発表させる。
40	8 「経済性＝少ないプログラムで」という視点で見たときに、修正することがないか考える。 ・この部分は同じプログラムが使われているから繰り返しプログラムを使えそう。 ・動きに無駄があるから、最短距離で動かせばもっといいのでは。	・プログラムもデジタル情報の一部であり、情報量を増やすことで動作が鈍くなったり、お金のかかるシステムになってしまったりすることをおさえる。《システム》《経済性》 ・できたことをまとめるだけでなく、見方・考え方の観点から気付けたことをまとめさせる。
	9 レポートカードに本時のまとめを書く。 車のオートライトは普段から見ているものだけど、実際に動作させるためには、明るいときと暗いときの二つの明るさの設定値を計測して、条件にあった時だけ光らせるようにするプログラムにしていかなければならないとわかった。プログラムを制作することだけを気にしていたけど、プログラムもデジタル情報の一つなので、経済的に考えたときに、効率よくできるだけのプログラムの手順で制作した方が安く動作もスムーズに動く良いプログラムになると思った。センサーを活用することで生活をより便利にすることができるようになる。	評価規準 (レポートカード) (思考・判断・表現) ○光センサーを活用したロボットのプログラムの改善点に気づき、修正方法とそのプログラムについて考え、構想を工夫している。

外国語科指導案

1 単元名 「Unit5 Universal Design」(NEW HORIZON English Course 2)

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

[知識]・疑問詞+to 不定詞を用いた文や主語+be 動詞+形容詞+that の文の形・意味・用法を理解することができる。

[技能]・各務原市内の施設や設備に取り入れられたユニバーサルデザイン（以下UD）について、疑問詞+to 不定詞や that 節の理解をもとに、目的や設置された理由を正しく説明することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

・紹介するUDについて、その使用目的や設置された理由に自分の考え等を加え、4文程度で発表することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

・互いに紹介しあったUDについて、その情報を整理し、簡単な語句や文を用いて書きまとめようとしている。

・誰もが使いやすいものや暮らしやすい社会にしていくなために必要なものがUDであるということに気づき、その考え方への理解を深めるとともに、あらゆる人の立場に立ち、すべての人にとって暮らしやすい社会について考えようとしている。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、日常生活に浸透しつつあるUDが紹介されている教材である。本文では、UD製品の事例や身近な施設での採用例などが扱われている。また、UDの父と言われるロナルド・メイスの考え方等についても扱われている。これらを通して、UDの考え方への理解を深めるとともに、あらゆる人の立場に立ち、すべての人にとって暮らしやすい社会について考えるきっかけとなる単元である。

文法事項としては、＜主語+動詞+（人）+疑問詞+to+動詞の原形＞や＜主語+be 動詞+形容詞+that＞が扱われている。UDを題材にした言語活動を通して、これらの表現を習得させる。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

本時は、UD製品を紹介する市のイベントに来たメグがスタッフとの会話を通して、瓶にあるUDに興味もつ場面である。本文を読解するにあたって、メグとスタッフの会話や写真に着目させて必要な情報を適切に捉えられるようにする。また、iPadを用いて教科書の音声を聞いたり、繰り返し音読したりする時間を確保し、どの生徒も本文の大まかな内容を理解できるようにする。

言語材料としては、主語＋動詞＋（人）＋疑問詞＋to＋動詞の原形の用法を扱う。終末の対話活動で繰り返し使用させて定着を図るとともに、単元終末の活動でも活用できる表現であることを意識させる。

4. 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

本単元のねらいはUDの考え方への理解を深めるとともに、あらゆる人の立場に立ち、すべての人にとって暮らしやすい社会について考えるきっかけにすることである。そのねらいの達成のために、各務原市内の施設や設備にあるUDについて、その目的や理由を考えて仲間を紹介するという目的・場面・状況の設定をした。そして、単元構成を「UD製品の使い方」、「校内のUD」、「地域施設のUD」と紹介することを段階的に広げて説明する場を設けた。

本時は教科書で扱った表現や既習表現を用いて、UD製品の使い方を紹介する活動を行う。仲間との交流を通して、情報を整理して伝えたり、考えを再構築したりして、より適切で伝わりやすい表現方法を用いて交流活動ができるようにする。

研究内容2 実態分析からの授業改善

・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

導入では教師が身近にあるUD製品を紹介し、どのような使い方をするのかをたずねる。生徒がその製品の使い方や利点を考えたり表現したりすることを通して、本時の内容や課題への理解を進める一助になるようにする。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

・学習を振り返る活動の工夫

本時では、展開後半の対話活動の時間を十分に確保する。提示するものを変えて対話をするなどで、活用できる表現が増えたり、話すことに新しい情報が加わったりするなど、本時の学びや深まりを実感できるようにする。また、最後に新しい文法事項を用いて、文を正しく書けるか確認する時間をもつことで、表現が定着したかどうか自分で確認できるようにする。

5 本時のねらい

- ・疑問詞＋to 不定詞の文の理解をもとに、本文の内容を捉えることができる。【知】
- ・UDの製品の使い方ややり方について、情報を捉えたり、伝えたりすることができる。【思】

6 単元構造図 第2学年 Unit5 Universal Design (全10時間)

単元のねらい	各務原市内の施設や設備に取り入れられているユニバーサルデザイン(以下UD)について、その目的や理由を明確にして聞き手に4文程度で説明することができる。	単元の終末における言語活動	市内の施設や設備に使用されているUDを調べ、紹介する。
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
確かめ る授業	9 まとめの活動①《情報の整理 考えの形成》 ・市内の施設や設備に使用されているUDを調べ、その目的や理由を説明する文を疑問詞+to 不定詞を用いた文や主語+be 動詞+形容詞+thatの文を用いて表現しようとしている。【態】	7 Read and Think②-1《情報の整理 社会背景の理解》 ・本文の内容を読み取り、情報を整理して要約することができる。【思】 ・本文の内容に対して、自分の考えを簡単な語句や文を用いて表現しようとしている。【態】	10 まとめの活動②《身に付けた思考力の発揮》 ・市内の施設や設備に使用されているUDについて、その使用目的や設置理由に自分の考え等を加え、4文程度で発表することができる。【思】 8 Read and Think②-2《考えの形成 考えの再構築》 ・UDが大切な理由について、本文やUDに関わる情報をもとにお互いの意見を伝え合うことができる。【思】
生かす 授業	5 Read and Think ①-1《情報の整理 既習事項と習得事項の活用》 ・主語+be 動詞+形容詞+thatの文の形・意味・用法を理解し、本文の内容を捉えることができる。【知】	6 Read and Think ①-2《考えの形成 考えの再構築》 ・公共施設のUDについて、その使用目的や設置理由などの情報を整理して伝えることができる。【思】	4 Mini Activity《情報の整理 考えの再構築》 ・学校内のUDについて、その使用目的や設置理由について伝え合うことができる。【思】
基礎・基本を 習得する授業	3 Scene2(本時)《既習事項と習得事項の活用》 ・疑問詞+to 不定詞の文の理解をもとに、本文の内容を捉え、UD製品の使い方ややり方などを伝えたりすることができる。【知】	2 Scene1《既習事項と習得事項の活用》 ・疑問詞+to 不定詞の文の形・意味・用法を理解し、本文の内容を捉えることができる。【知】	1 単元の見通し《事象を捉える 目的・場面・状況を捉える》 ・UDについての動画視聴を通して、各務原市内の施設や設備に取り入れられているUDを想起し、単元終末での活動へのイメージをもち、単元全体の見通しをもつことができる。【態】

7 単元指導計画 (○…「評定に用いる評価」、●「学習改善につなげる評価」)

	学習内容 ねらい	中心となる 言語活動	評価規準	目指す姿の具体	言語活動における 目的・場面・状況	見方・考え方	終末の姿との かわり
1	単元の見直し UDについての動画視聴を通して、各 都道府県の施設や設備に取り入れら れているUDを整理し、単元終末での 活動へのイメージをもち、単元全体の 見直しをもつことができる。【知】						
2	Scene1 疑問詞+to不定詞の文の形・ 意味・用法を理解し、本文の内容を 捉えることができる。【知】	【読むことⅠ】 ・ポスター形式の本文から、必要 な情報を読み取る。 【話すこと(やりとり)Ⅰ】 ・(疑問詞+to+動詞の原形) を用いて対話する。	●(疑問詞+to+動詞の原 形)の用法を理解し、それらを 正しく用いて適切に用いて、自 分が知りたいことについて語ら れている。【知】	・イベント概要(日時、場所、内 容)が読み取れる。 ・Do you know how to use this? ・Do you know where to go?	・ある事柄について知りたい が、どうすればよいかを 尋ね、知りたいことの情報を 得る。	・既習事項と習得 事項の活用	・新出文法を用いて、やり方 などを知っているか問いた り、答えたりする。
3 (登山)	Scene2 疑問詞+to不定詞の文の理解をもと に、本文の内容を捉え、UD製品の使 い方ややり方などを伝えたりするこ とができる。【知】	【読むことⅠ】 ・UDの特徴を考えながら対話の内容 を読み取る。 【話すこと(やりとり)Ⅰ】 ・(主語+動詞+(人)+疑問詞+to+動 詞の原形)を用いた対話をする。	●疑問詞+to不定詞の表現 を手がかりにして、本文の内容を 捉えたり、UD製品の使い方 ややり方などを伝えたりして いる。【知】	・I can show you how to use this eraser. ・I can tell you how to play this toy.	・UD製品の使い方が分か らず、詳しく知りたいと考 えている仲間、UD製品 の使い方や利点を伝える。	・既習事項と習得 事項の活用 ・考えの再構築	・新出文法を用いて、人にや り方を教えることができる ことについて説明する。
4 (車道)	Mini Activity ・学校内のUDについて、その使 用目的や設置理由について伝え 合うことができる。【思】	【話すこと(やりとり)Ⅰ】 ・UDが取り入れられているもの の使い方や感想等について、考 えを整理し、ペアで述べ合う。	●UDを使用する目的や設置 理由を疑問詞+to不定詞や 接続詞whenやif等の既習の 表現を用いて伝え合ってい る。【思】	・There is a slope at the 2nd grade entrance. I tell you when to use it. When you use a matsubadue, you can use a slope. It is easy to go.	・校内にあるUDの考えが取り 入れられたものについて知りた いと思っているKET(教師)に、 UDのものを説明する。	・情報の整理 ・考えの再構築	・既習文法事項を活用して、 自分の考えを相手に分かり やすく伝える。 ・自分の考えを分かりやすく まとめ、簡潔に説明する。
5	Read and Think 1-1 主語+be動詞+形容詞+ thatの文の形・意味・用法を理 解し、本文の内容を捉えること ができる。【知】	【話すこと(発表)Ⅰ】 ・本文の内容を読み取り、UDの 意義をまとめ、自分の考えや感 想を交えながら伝える。	●本文の内容を捉えて、自分 の考えを伝えている。【知】	・"Universal" means "for all people." Do you see the ramp by the stairs? If you are in a wheelchair, or pulling heavy luggage, you can use the ramp. It also helps the elderly and people with babies and small children. Meg thinks the ideas are wonderful. I'm sure that universal design is helpful.	・UDの詳細を知らないペアの 仲間、メガになったつもりで、 UDについて調べたことを発表 する。	・情報の整理 ・既習事項と習得 事項の活用	・ユニバーサルデザインの意 義を思いだし説明する。 ・新出文法を用いて文の核心 や喜びの気持ちを相手に伝 える。
6	Read and Think ②-2 ・公共施設のUDについて、その 使用目的や設置理由などの情報 を整理して伝えることができる。【思】	【話すこと(発表)Ⅰ】 ・公共施設のUDについて、その 使用目的や設置理由などにつ いて考えを述べ合う。	●自分の考えを適切に伝えて いる。【思】	・This is a toilet. Anyone can use it. It has a handrail. People in wheelchair can open the door easily. I think these ideas are wonderful.	・公共施設にあるUDの考 えが取り入れられたものにつ いて知りたいと思ってい るKET(教師)に、UDのも のを説明する。	・考えの形成 ・考えの再構築	・身近なものに目を向けて、 ユニバーサルデザインの視 点から自分の考えや気持ちを 整理して既習文法を用いて 相手に述べる。
7	Read and Think 2-1 ・本文の内容を読み取り、情報を 整理して伝えることができる。 【知】 ・本文の内容に対して、自分の考 えを簡単な語句や文を用いて表 現しようとしている。【思】	【話すこと(発表)Ⅰ】 ・本文の内容を読み取り、自分 の考えを加えて、ロナルド・メイ スの功績を伝える。	●本文の内容を捉えている。 【知】 ●内容と自分の考えを表現し ようとしている。【思】	・He is an American professor. He was in a wheelchair from childhood. He wanted to remove barriers for everyone. I like his idea. I think it is very important to know there are different people in our society.	・ロナルド・メイスのことを知らない ペアの仲間、その人物の功 績の要点を紹介する。	・情報の整理 ・社会背景の理解	・メイスの功績を通して、だれ もが暮らしやすい社会とはど ういうものか考え、自分の 考えを述べる。
8	Read and Think ②-2 UDが大切な理由について、本 文やUDに関わる情報をもとに お互いの意見を伝え合うこと ができる。【思】	【話すこと(やりとり)Ⅰ】 ・教科書の資料をもとに自分の 意見を考え、伝え合う。	●UDが大切な理由について、 資料をもとに自分の意見を伝 え合っている。【思】	・S1: I think there are many kinds of people in Japan. S2: I think so, too. So, we should make a good society for everyone. S1: Yes. We also have to remove difficult things. S2: You're right. It's helpful.	・UDの考えを知らない仲間 に向けて、UDが大切な理由を説 明する。	・考えの形成 ・考えの再構築	・既習表現や本文で学んだこ とを活かして、テーマに沿っ た考えを述べる。
9	まとめの活動① ・市内の施設や設備に使用されて いるUDを調べ、その目的や理由を説明 する文を疑問詞+to不定詞を用いた文 や主語+be動詞+形容詞+thatの文 を用いて表現しようとしている。【思】	【話すこと(やりとり)Ⅰ】 ・「市内の施設や設備に使用され ているUDの目的や理由」を4文 程度で発表するため、英語で話 したりアドバイスし合ったりす る。	●UDの考えが取り入れられ ているものの目的や理由を考 え、粘り強く英文を考えよう としている。【思】	・Kakumigahara City Hall has big displays to tell us some information. Anyone can watch and listen to them easily. I think it is easy to get news from our city when we wait our turn. I'm sure that big displays help many people.	・市内にあるUDの考えが、 取り入れられたものにつ いて知りたいと思ってい るKET(教師)に、UDのものを 説明する。	・情報の整理 ・考えの形成	・UDが使われている目的や 理由を整理しながら、市内の UDについて説明する。
10	まとめの活動② ・市内の施設や設備に使用されて いるUDについて、その使用目 的や設置理由に自分の考え等 を加え、4文程度で発表すること ができる。【思】	【話すこと(発表)Ⅰ】 ・話し方や表現、構成などを工夫 しながら、聞き手が理解しやす い発表をする。	○話題に対する事実と考えを 整理し、各都道府市内の施設や 設備に取り入れられているUD の目的や理由を明確にして 説明している。【思】			・身に付けた思考 力の発揮	

8 本時の展開(3/10) 働かせる見方・考え方…《既習事項と習得事項の活用・考えの再構築》

時間	学習内容	研究内容とのかかわりや指導援助等
00	1. Oral Interactive Introduction ○本文に関わる内容を教師と生徒でやりとりすることを通して、本時の見通しをもつ。 T: Meg is in the exhibition hall. She is talking with a staff member there. The staff says, "I can show you how to use these universal design products." What's this? S: It's a jar. T: This is a universal design. Why is this a universal design? Do you have any ideas? S: It has dekoboko (bumps) and tenji (braille). T: That's right. Can you tell me how to use it? What do you think are the good points of this? Today, let's think and tell about how to use some UD products.	研究内容とのかかわりや指導援助等 ・本文の場面絵を用いて、本時の場面や状況を把握させる。 ・本文で紹介されているUD製品を提示し、教師とのやりとりを通して使い方やよさを考えさせることで、前の文法事項を振り返るとともに、本時の内容や課題解決への見通しをもつことができるようにする。 《既習事項の活用》
05	2 導入から課題提示へつなげる。 課題 UD製品の使い方ややり方を仲間に説明できるようになろう。	
06	3 教科書本文の内容を理解する。 ○TorFで本文内容のリスニング問題に取り組む。 ○新出単語の確認をする。 ○Q&Aの問題を提示し、ピンに用いられているUDについて考える。 ○iPadで個別に本文の音声を確認し、音読練習に取り組む。 Q1: What can we do thanks to the bumps? A1: We can open the jar easily. Q2: What does the jar have for blind people? A2: It has braille. ○答えを全体で確認する。	・iPadを活用して、個別に単語を学習したり、本文を音読したりできるようにする。 ・本文のどの部分が答えの根拠となるのかを確認するように促す。 【予想されるつまづき】 ・本文を読み解き、答えを見つけることができない。 ☆C⇒Bへの手立て ☆生徒が困っていることに応じてヒントを与える場や、小グループで交流する場を設定する。
25	4 主語+動詞+(人)+疑問詞+to 動詞の原形の使い方を理解する。 ○tell や teach+疑問詞+to 動詞の原形の場合の意味も確認する。 ○教科書の問題(practice)に取り組む。	【予想されるつまづき】 ・UD製品の使い方を紹介するための単語や表現の仕方が分からない。 ☆C⇒Bへの手立て ・紹介するために必要な単語をカード上に提示し、表現方法を考える上でのヒントが得られるようにする。 ・紹介する製品を変えながら、繰り返し説明する場を設定することで、仲間の表現を取り入れたり、説明する内容を再構築したりできるようにする。 《習得事項の活用・考えの再構築》
30	5 UD製品についての対話活動を行う。 ○UD製品のカードを用いて、その製品の使い方を説明する。 A: Look at this. Do you know this? B: Yes, I do. It's a Rubik's cube. A: Can you tell me how to do it? B: I can tell you how to play this toy. You need to complete six colors. Thanks to the bumps, it is easy to complete them for blind people.	・紹介するために必要な単語をカード上に提示し、表現方法を考える上でのヒントが得られるようにする。 ・紹介する製品を変えながら、繰り返し説明する場を設定することで、仲間の表現を取り入れたり、説明する内容を再構築したりできるようにする。 《習得事項の活用・考えの再構築》
42	6 学習を振り返る活動 ○自分が使い方ややり方を紹介できることについて英文を書く。 ・I can tell you how to use this knife. ・I can show you how to use this stapler. ○書いたものをロイロノートに提出し、全体で共有する。	・話したことを思い出しながら、新しい文法を活用して、表現できるか確認させる。《習得事項の活用》 評価規準 (記述・発言内容) ●疑問詞+to 不定詞の表現を手がかりにして、本文の内容を捉えたり、UD製品の使い方ややり方などを伝えたりしている。【知】

外国語科指導案

1 単元名 「Unit5 Universal Design」 (NEW HORIZON English Course 2)

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・[知識] 疑問詞+to を用いた文や主語+be 動詞+形容詞+that の文の形・意味・用法を理解することができる。
- ・[技能] 各務原市内の施設や設備に取り入れられたユニバーサルデザイン（以下UD）について、疑問詞+to や that 節を用いて、使用目的や設置された理由を正しく説明することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・紹介するUDについて、その使用目的や設置された理由に自分の考え等を加え、4文程度で発表することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・互いに紹介しあったUDについて、その情報を整理し、簡単な語句や文を用いて書きまとめようとしている。
- ・誰もが使いやすいものや暮らしやすい社会にしていくなために必要なものがUDであるということに気づき、その考え方への理解を深めるとともに、あらゆる人の立場に立ち、すべての人にとって暮らしやすい社会について考えようとしている。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、日常生活に浸透しつつあるUDが紹介されている教材である。本文では、UD製品の事例や身近な施設での採用例などが扱われている。また、UDの父と言われるロナルド・メイスの考え方等についても扱われている。これらを通して、UDの考え方への理解を深めるとともに、あらゆる人の立場に立ち、すべての人にとって暮らしやすい社会について考えるきっかけとなる単元である。

文法事項としては、＜主語＋動詞＋（人）＋疑問詞＋to＞や＜主語＋be 動詞＋形容詞＋that＞が扱われている。UDを題材にした言語活動を通して、これらの表現を習得させたい。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

本時は単元全体の4時間目にあたる。生徒は導入から3時間目までにUDとはどんなものなのか、身近なUDやUDの製品について具体例とともに学ぶ。そして本時では、学校内のUDにはどんなものがあるか、またその使用目的や設置理由について伝えるという場面設定をしている。本単元で新たに学んだ疑問詞+toを用いる以外にも、Unit2で学んだ接続詞 when や if 等を用いて伝え合うことができるようにする。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

本単元のねらいは、UDの考え方への理解を深めるとともに、あらゆる人の立場に立ち、すべての人にとって暮らしやすい社会について考えるきっかけとなる単元である。このねらいを達成するために、各務原市内の施設や設備に取り入れられているUDを、その目的や理由を明確にして説明するという目的・場面・状況の設定をした。

英語を用いてUDの説明を表現し、伝え合うために、単元を通して「UD製品の使い方」→「学校内のUD」→「公共施設のUD」と段階的に説明をする場を設定した。生徒は本単元で学んだ文法事項を意図的に取り入れたり、仲間の表現を取り入れたりして、再構築を繰り返し、伝える力を身に付けていく。

本時では、「学校内のUD」という第二段階にあたり、どの既習表現を使えば伝えやすいか、疑問詞+to 不定詞の文をどう取り入れられるかを仲間と伝え合う中で考えさせたい。

研究内容2 実態分析からの授業改善

・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

UDについての知識や興味を高めるため、単元を通してUD製品の紹介や身近なUDについて自分の考えを表現する場を Small Talk で位置付けていく。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

・学習を振り返る活動の工夫

言語活動においては、自分の表現した内容と仲間の内容を比較したり、異なる目的・場面・状況ではどんな表現を用いることができるかを考えたりする。また単元の終末でその表現が再利用できるように文に残していく。

5 本時のねらい

学校内のUDを紹介する活動を通して、そのUDを使用する目的や設置理由を疑問詞+to や接続詞 when や if 等の既習の表現を用いて伝え合うことができる。【思考・判断・表現】

単元のねらい

各務原市内の施設や設備に取り入れられているユニバーサルデザイン(以下UD)について、その目的や理由を明確にして聞き手に4文程度で説明することが出来る。

単元の終末における言語活動

市内の施設や設備に使用されているUDを調べ、紹介する。

確かめ る授業	9 まとめの活動①《情報の整理 考えの形成》 ・市内の施設や設備に使用されているUDを調べ、その目的や理由を説明する文を疑問詞+to不定詞を用いた文や主語+be動詞+形容詞+thatの文を用いて表現しようとしている。【態】
生かす 授業	7 Read and Think②-1《情報の整理 社会背景の理解》 ・本文の内容を読み取り、情報を整理して要約することができる。【思】 ・本文の内容に対して、自分の考えを簡単な語句や文を用いて表現しようとしている。【態】
	5 Read and Think ①-1 《情報の整理 既習事項と習得事項の活用》 ・主語+be動詞+形容詞+thatの文の形・意味・用法を理解し、本文の内容を捉えることができる。【知】
	6 Read and Think ①-2 《考えの形成 考えの再構築》 ・公共施設のUDについて、その使用目的や設置理由などの情報を整理して伝えることができる。【思】
	10 まとめの活動② 《身に付けた思考力の発揮》 ・市内の施設や設備に使用されているUDについて、その使用目的や設置理由に自分の考え等を加え、4文程度で発表することができる。【思】
	8 Read and Think②-2《考えの形成 考えの再構築》 ・UDが大切な理由について、本文やUDに関わる情報をもとにお互いの意見を伝え合うことができる。【思】

外国語科 11

7 本時の展開(4/10)

時間	学習内容	研究内容とのかかわりや指導援助等
00	1 前時までの振り返り Op.74 の Practice を利用して、疑問詞+to の復習を行う。	・本時の言語活動に使用する文法事項をイラストを用いて復習する。
3	・I can tell you how to read braille. ・I can show you where to go.	予想されるつまずき ・イラストだけでは英文が思い浮かばない。
10	2 Mini Activity Listen Op.75 の問題に取り組む。	☆C⇒B への手立て ☆前時までの振り返りを活用させる。 ☆仲間と英文を確認しあう。
13	3 Small Talk ○校内の写真を見て、設置されているUDがどんな使い方をするのか、 どういう目的・理由で作られたのかを交流する。	・選択問題のため、自分の答えを意思表示させる。 ・解答状況を見て問題を流す回数を調整する。
13	T : Do you know this? This is slope. Do you know how to use this? S1: I know how to use this. When you use a matsubazue, you can use a slope. S2: I see. It is easy to go. S3: A wheelchair can enter the entrance.	・玄関スロープの写真を提示して、生徒同士に使い方を考えさせる。どのような表現が使えそうか、前時に学習した表現は使えそうかを考えさせる。
	4 Small Talk を利用して課題化を行う。	・教科書では、自分が知りたい情報という目的・場面・状況設定だが、これを教師が知りたい情報という形に変え、課題化する。
	教室内や学校内のUDを見つけて、その使い方や作られた理由を説明しよう。	
17	○生徒が思いつくUDをいくつか挙げる。	・思いつかない場合は、チョークや新しいイス等、教室内外を観察させ、UDに気付かせる。またUDについて p.72 を用いて理解を深めさせる。
30	5 教室内外または校舎内のUDを見つけ、その説明をする。	・校舎内の様子を撮影した動画を見て、UDを見つける。
40	・There is a large restroom in our school. I tell you when to use it. If you get hurt, you cannot use ordinary toilet. You can use this restroom. ・This is an universal design chalk. It is easy to understand red color. I know where to get it. We can get it at teachers' room.	予想されるつまずき ・即興的に英語で表現することができない。
50	6 学習を振り返る活動 見つけたUDについて画像に音声をつけ加えたものを録音する。	☆C⇒B への手立て ☆タブレットに記録したUDについて説明する英文のメモをつくる。 ・ペア・小集団でUDの交流を行う。複数回説明する場を設けることで、仲間の表現を取り入れたり、説明内容の改善を図ったりすることに気付かせる。 ・UDの考えを理解し、目的や理由まで表現できている生徒を抽出する。
	I can tell you how to use this plastic chair. The wood chair is heavy. But the plastic is light. So it is easy to carry. Boys and girls can carry.	評価規準(記述・発言内容)(●思・判・表) UDを使用する目的や設置理由を疑問詞+to や接続詞whenやif等の取組の表現を用いて伝え合うことができる。

外国語科指導案

1 単元名 「Unit5 A Legacy for Peace」(NEW HORIZON English Course2)

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・[知識]名詞を修飾する文と、関係代名詞 who、that[which](主格・目的格)を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。
- ・[技能]名詞を修飾する文と、関係代名詞 who、that[which](主格・目的格)を用いた文の理解をもとに、言葉に詳しい情報を加えて説明することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・平和や人権の大切さを考えるために、ガンディーの生涯と功績について書かれた文章の概要をとらえたり、憧れの人物を紹介したりすることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・平和や人権の大切さを考えるために、ガンディーの生涯と功績について書かれた文章の概要をとらえたり、憧れの人物を紹介したりしようとすることができる。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、インドの民族独立運動の最高指導者であるガンディーを扱った内容である。文章等で現れてくる基本思想は、彼の活動の根底に流れる非暴力の精神であり、自分自身を犠牲にしても非暴力を主張し続けたガンディーの精神について、少しでも自分に関連させて考えさせていく。また、新言語材料として、関係代名詞(主格・目的格)を扱っている。これまで様々な後置修飾の用法を学んできたが、それらの知識と関連させていきながら関係代名詞の学習に取り組ませていく。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

本時は自分の憧れの人について、情報を加えて伝えたり、相手からの質問に答えたりする時間である。単元を通して、名詞＋主語＋動詞の後置修飾を使うことで名詞を修飾する文を作ることができることや、関係代名詞を使うことで人やものについて説明することができることを学習している。加えて2年生で学習した後置修飾の不定詞や、Unit4で学んだ現在分詞や過去分詞による後置修飾も振り返りながら学習を進めていく。そのために、単元を通して名詞を修飾する表現を復習し、本時のはじめには前時までの文法事項の復習を行う。特に人を詳しく説明するために、後置修飾の関係代名詞 who を使うことができるということを確認する。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

本単元のねらいはガンディーの功績を知ることを通して平和や人権の大切さを考え、理不尽なことに屈しない心や暴力に訴えない行動について深く考えることである。そのねらいの達成のために、ガンディーの文章に登場する“discrimination” “independence” “non-violence”といったキーワードについて、自分の意見を付け加えながら説明するという目的・場面・状況の設定をした。

本時は教科書で扱った表現や既習表現を用いて、自分の憧れの人物を紹介する活動を単元終末の活動として行う。仲間との交流や目的・場面・状況の変化を通して、情報を整理して伝えたり、考えを再構築したりして、より適切で伝わりやすい目的・場面・状況に応じた表現方法を用いて交流活動ができるようにする。

研究内容2 実態分析からの授業改善

・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

導入では教師が自分の憧れの人物を写真とともに紹介し、生徒に活動の見通しをもたせるとともに、どのような語彙や表現を使うことができるのかを示す。また意図的に既習表現を用いて、Unit4までに学んだ文法事項も本時の活動で活用できることに気付かせる。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

・学習を振り返る活動の工夫

本時では、終末の対話活動の時間を十分に確保する。対話活動の間に中間交流を仕組み、内容面と態度面について指導する。中間交流を通して自分の表現の不十分な部分に気付かせ、変化が生まれたり、新しい情報が加わったりしたことを実感できるようにする。また最後に自分の発表を動画として記録し、授業開始時の自分と様々な表現に触れた後の自分との違いに気付かせ、成長を実感させていく。

5 本時のねらい

・名詞を修飾する文と関係代名詞 who, that[which](主格・目的格)を用いた文の理解をもとに、言葉に詳しい情報を加えて説明することができる。【知】

・自分の憧れの人物について、情報を整理し、自分の意見も付け加えて伝えることができる。【思】

単元構造図 第3学年 Unit5 A Legacy for Peace (全10時間)

単元のねらい	単元の功績に関する文章を読むことを通して、彼がしたことや人やものに詳しい情報を加えて伝える表現について理解し、自分の憧れの人物を詳しく伝え合うことができる。	単元の終末における言語活動	憧れの人物を紹介するために、詳しい情報を整理して加え、書いた原稿をもとに発表したり、発表に対して質問したりする。
評価規準	知識・技能	・名詞を修飾する文と、関係代名詞 who, that[which](主格・目的格)を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・名詞を修飾する文と、関係代名詞 who, that[which](主格・目的格)を用いた文の理解をもとに、言葉に詳しい情報を加えて説明している。	・憧れの人物を紹介するために、詳しい情報を整理して加え、書いた原稿をもとに発表したり、発表に対して質問したりできる。【思】
確める授業	9 まとめの活動① ・自分の憧れの人物を紹介するためにその人についての詳しい情報を、表をつかって整理し、自分の意見や理由を加えて原稿を書くとしている。【態】	7 Read and Think ②-3 ・本文の内容を読み取り、情報を整理して要約することができる。【思】 ・本文の内容に対して、起こった出来事を時間軸に沿って説明しようとしている。【態】	10 まとめの活動② ・憧れの人物を紹介するために、詳しい情報を整理して加え、書いた原稿をもとに発表したり、発表に対して質問したりできる。【思】
生かす授業	5 Read and Think ②-1 ・ガンディーの生涯と功績について書かれた文章の内容を捉えることができる。【知】	8 Read and Think ②-4 ・本文に出てきたキーワードについて、その言葉の意味を自分の意見を付け加えて説明することができる。【思】	6 Read and Think ②-2 ・関係代名詞 that・which(主格・目的格)の文の形・意味・用法を理解し、自分の持っているものについて詳しく書くことができる。【知】
基礎・基本を習得する授業	4 Mini Activity ・教科書で出てきた人物やものなどについて、どのような人物やものなのか、情報を加えて伝え合うことができる。	3 Scene2 ・関係代名詞(who)の文の理解をもとに、本文の内容を捉えることができる。【知】 ・自分がどんな人物になりたいかについて、伝えあうことができる。【思】	2 Scene1 ・名詞を修飾する文の形・意味・用法を理解し、本文の内容を捉えることができる。【知】
	1 単元の見直し ・ガンディーやインドについての動画視聴や登場人物のガンディーに関する対話を聞くことを通して、単元終末での活動へのイメージをもち、単元全体の見直しをもつことができる。【態】		

8 本時の展開(10/10)

時間	学習内容	研究内容とのかかわりや指導援助等
00	1 課題をつくる展開 ・オーラルイントロダクション 前時のメモと写真を使いながら生徒にモデルを示す。 T: This is the person I respect. Do you know him? S: He is Otani Shohei. T: That's right. The person I respect is Otani Shohei. He is a professional baseball player in the USA. He says "It is important to try something." I want to try something like him.	・研究内容とのかかわりや指導援助等 ・教師のモデルを示すことで生徒が今からどのような活動をするのか見通しを持たせ、どのような既習表現を使うことができるのかを示す。 《習得事項の活用》 予想される生徒のつまずき ・どんな活動をするのか理解できない
08	2 導入から課題へつなげる 課題 自分の憧れの人物を KET に紹介しよう。	☆モデルの中に既習表現を含め、利用できる表現に触れることができるようにする。
22	3 憧れの人物の発表① ・自分の憧れの人物についてペアで伝え合う。 ・聞き手は発表を聞いた後に質問をするということを指示する。 The person I respect is mother. She is a nurse. She likes working. She is my role model.	・生徒が作成した原稿を、ペア交流や全体交流を通して変化させていくことを伝える。 ・以下の2点に着目して聞くことを指導する。 ①自分の原稿に活かすことができる表現を見つける。 ②相手の発表に対して質問をする。
27	4 中間交流①(内容面) ・抽出生徒数人に発表をしてもらい、その人物のどんな部分を紹介したのかを全員でおさえる。 ・人を紹介するのに適している表現を取り上げ、価値付ける。	・中間交流①では、その人物の名言、職業、出身地、大切にしていること、功績などを紹介したい部分として共有する。
32	5 スピーチの再構築① ・ペアの発表や中間交流で出た表現を自分の発表に活かすために自分の原稿を手直しする。	予想される生徒のつまずき ・手直しするときに有効な表現がわからない。
37	6 憧れの人物の発表② ・ペアを変更して自分の憧れの人物について伝え合う。 ・聞き手は発表を聞いた後に質問をするということを指示する。 The person I respect is my mother. She works at the hospital. She enjoys working. I want to enjoy working.	・板書に仲間の表現を位置付けることで、再構築の際に取り入れやすくする。 ・ペア交流や中間交流で様々な表現に触れ自分の原稿を見直す時間をとることで、仲間の表現を取り入れ自分の考えを再構築できるようにする。 《習得事項の活用・考えの再構築》
40	7 中間交流②(内容面・態度面) ・抽出生徒数人に発表してもらい、その生徒の内容面と態度面に触れてスピーチに関する指導を行う。	・交流を通して、授業開始時の自分と最後の自分の変化に気付かせ、自分の成長を実感させる。
43	8 スピーチの再構築② ・ペアの発表や中間交流で出た表現を自分の発表に活かすために自分の原稿を手直しする。	
	9 学習を振り返る活動 ・交流を通して完成した原稿をもとにペアで発表の動画を撮影しあう。 ・提出箱に入っている前時作成した原稿と新たに書き足した原稿の2つを提出させる。 The person I respect is my mother. She works at the hospital to help people. She always enjoys working. I want to work like her.	評価規準(記述・発言内容) ○憧れの人物を紹介するために、詳しい情報を整理して加え、書いた原稿をもとに発表している。【思】

特別支援教育 作業学習指導案

1 単元名 「PPバンドで製品を作ろう」

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・製品であることを理解し、提示された手順で正しく作業を進める。
- ・自分の担当の製品を作り上げることやそれを買ってもらう経験を通して、仕事への達成感を得ることができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・分からないことや困ったことがあるときに相談したり、工程ごとに作業状況を報告したりすることができる。
- ・作業の進度や学習姿勢を振り返り、次時の課題を見いだすことができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・自分の仕事に最後まで粘り強く取り組むことができる。
- ・工程に沿って、より効率よく作業できるよう工夫しようとすることができる。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元では、PPバンドを使って小物入れやかごバッグ、フォトフレームなどを製作する活動を通して、職業生活に係る基礎的な知識・技能や、課題解決に取り組む力を身に付け、他者の役に立とうとする気持ちを育むことを目指す。PPバンドの材質を理解し、それを活かして製作を進めることや、個で製作を進めながら仲間の活動を認めることによって、自分の活動の工夫改善につなげることができる考える。単元の終わりには製品の販売を計画している。そこで接客の仕方を学んだり、自分たちの製品を購入してもらえる喜びを感じたりし、それらを実生活にもつなげたい。将来、働く人になるために、挨拶や身だしなみ、適切な言葉遣い、報告・連絡・相談にこだわり、働くことの楽しさややりがいを感じることができるようにしていく。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

単元を通して、一単位時間の流れを統一し、生徒が見通しをもって取り組むことができるようにしている。生徒一人一人が、自分の課題を意識し、仲間や教師と一緒に最後まで粘り強く取り組むことができるよう個に応じた支援をしていく。本時では、技能面における実態から活動グループを設定し、平面的に組む工程がメインとなるフォトフレームの製作、立体的に編む工程が入るかごバックの製作を行う。つまずきを予測し、自分で課題解決に向かうことができる手立てを講じたり、課題の達成度や自分の学習姿勢を自覚するために仲間との交流を位置付けたりする。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

・つまずきを予測した上での課題の設定

製品作りに入る前に製作体験期間を設定し、実態把握をする中で各生徒のつまずきを予測した。また、生徒自身が、製作体験を経て自分の得意なことやつまずきを考える時間を設けた。自分のつまずきを自覚し、そこから単元を貫く課題を考え、生徒自身が自分の課題を意識して活動に取り組む。

研究内容2 実態分析からの授業改善

・ねらいを達成するための手立ての提示

作業を進める中でつまずきを感じたとき、自己解決の手がかりとなるよう、生徒のiPadに視覚的に示した作業工程を送っておく。報告・相談に課題がある生徒のためには、教師からの言葉掛けを待つのではなく、自ら伝えることができるよう、簡単な話型を示す。また、グループリーダーを設定する。グループリーダーは、グループ内に困っている生徒がいる場合の相談役や、振り返りの時間の進行役となる。リーダーを担うことによって、リーダー自身が自己の学習姿勢を正し、最後まで粘り強く取り組むことができるようになる。さらに、消極的な言動が課題となる他の生徒にとっては、つまずいたときに相談しやすく、仲間の力を借りて意欲を持続させることができるようになる。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

・課題の達成度や学びに向かう姿の自己評価の位置付け

振り返りにおいて、iPadを活用して自己評価を行う。身だしなみや報告、言葉遣いなどの項目について○△で評価し、課題の達成度や学習姿勢を振り返って次時の目標を設定する。自己評価は提出箱に提出し、仲間との交流の時間に仲間の自己評価と比較しながら確かめることで、自分や仲間の頑張りを認められるようにする。

単元構造図 『 作業学習 PPバンドで製品をつくろう 』

特別支援の目指す生徒の姿

- ・活動内容や、道具の正しい使い方を理解し、見通しをもって準備する姿
- ・自分の役割や活動に、最後まで粘り強く取り組む姿
- ・つまづいた時に、仲間や教師に自ら報告・相談できる姿
- ・学習したことを活用しながら、実生活を工夫していこうとする姿

本単元の目標

取り扱う材料について知った上で自分の課題をもって製作活動に取り組み、製品をつくりあげることや購入してもらえ経験を通して、仕事への達成感を感じたり自ら課題を解決しようとしたりすることができる。

次	主な学習活動	全体の目標	手立て・支援
第三次	製品の販売 (10時間)	・接客の仕方を学ぶことができる。 ・仲間と協力して、お客様の気持ちを考えた販売に向けての準備をすることができる。 ・数学で学んだ四則計算を生かして、販売時や売り上げの計算をすることができる。 ・自分たちの製品を購入してもらえ喜びを感じることができる。 ・本単元で学んだことを実生活やその後の学習に活かそうとすることが出来る。	・販売時に必要な言葉、接客態度をロールプレイで繰り返し練習を行う。 ・自分たちの製品を買ってもらうにはどのような工夫ができるか考える時間を設ける。 ・数学担当の教員と相談・連携し、販売などで必要な計算を練習させる。 ・販売時に購入していただいた人にカードを渡し、製品や接客の感想を書いてもらう。 ・単元のまとめにおいて、感想カードを読んだり売り上げを確認したりすることで、人の役に立つ喜びを感じられるようにする。
第二次	個人製作 (35時間) 【本時】	・製品であることを理解し、提示された工程で正しく作業を進める。 ・自分の担当の製品を作り上げることで仕事への達成感を得ることができる。 ・分からないことや困ったことがあるときに相談したり、工程ごとに作業状況を報告したりすることができる。 ・作業の進捗や学習姿勢を振り返り、次時の課題を見いだすことができる。 ・自分の仕事に最後まで粘り強く取り組むことができる。 ・工程に沿って、より効率よく作業できるように工夫しようとする事が出来る。	・実際に応じたグループ分けをする。 ・生徒が作業工程で迷った際に、自己解決の手がかりとなるように生徒のiPadに視覚的に示した作業工程を送り、いつでも確認できるようにしておく。 ・製品が1つできあがるごとに出来高表に記録し、自分やグループの頑張りが視覚的に分かるようにしておく。 ・各グループにリーダーをつくり、分からないことや困ったことがあれば相談できるようにしておく。 ・工程表に報告マークを付け、報告するタイミングを視覚的に示す。 ・毎時間、授業の終末の振り返り時に自己評価をし、そこから次時の自分の課題をつくる時間を設ける。 ・毎時間、グループのリーダーが頑張っていた仲間の頑張りを認める時間を設ける。 ・リーダーに活動の進行や相談役を担う役割を与え、責任をもって最後まで仕事に取り組めるようにする。また、その姿を価値付ける。 ・工程に沿って手順を工夫している姿を全体に広める。
第一次	オリエンテーション 製作体験 (8時間)	・PPバンドの特性について知ることができる。 ・製作体験の中で製品見本を見たり、作業工程を知ったりすることで新しい活動への不安を取り除き、製作意欲を高め、見通しをもつことができる。 ・製作体験を通して、自分の得意なことやつまづきを知り、単元を貫く自分の課題を見つけることができる。	・PPバンドに実際に触ってみたり、熱を加えたり、インターネットで調べたりしてPPバンドの材質や特徴に興味をもてるようにする。 ・製作のコツや注意事項を理解することができるよう実際にPPバンドの簡単な小物入れやカゴを作る。 ・今後の製作活動の見通しをもてるよう、製作のおおまかな手順を視覚的に示し一緒に確認をしながら作業を進める。 ・自分の得意なことやつまづきを見つけれない場合には、具体的な姿を伝え想起させる。

つまり、ずっと自分に自分から助けを求めることができる。
言葉遣いや声の出し方を意識して報告することができる。
単位時間の中で見通しをもって製作することができる。
分らないことを、自分から伝えることができる。
作業内容を理解して、正しい手順で製作することができる。

時間	学習内容	準備・活動・授業の進め方	評価・振り返り
00	1 課題をつくる展開 ○前時のふりかえり記入した「次のめあて」を見直す。	準備・活動・授業の進め方 ・自分の出動札を裏返し、出動の挨拶をして入室する。	授業内容を理解して、正しい手順で製作している。(作業の様子、製品) (知識・技能)
05	2 追究、交流などの展開 ○作業に取り組む。	自分の必要な材料、道具を準備する。 ・授業開始の挨拶を行う。	自分から伝えている。(作業の様子) (主体的に学習に取り組む態度)
20	3 深める展開 ○お互いの製品を見合い、アドバイスをする。 ○アドバイスを意識しながら作業を再開する。	時間内に自分が決めたところまでやりきろう。 ・課題をつくる展開で進めよう。 ・今日の目標を達成しよう。 ・本時の目標を達成しよう。 ・本時の目標を達成しよう。 ・本時の目標を達成しよう。	自分から伝えている。(作業の様子) (主体的に学習に取り組む態度)
40	4 学習を振り返る活動 ○グループで、本時の振り返りを一人発表する。 ○自己の活動を振り返り、自己評価をする。 ○全体で本時の出来高を確認する。	授業進行の展開で進めよう。 ・今日の目標を達成しよう。 ・本時の目標を達成しよう。 ・本時の目標を達成しよう。 ・本時の目標を達成しよう。	自分から伝えている。(作業の様子) (主体的に学習に取り組む態度)
50	5 振り返り ○振り返りシートに記入し、振り返りシートを提出する。	授業進行の展開で進めよう。 ・今日の目標を達成しよう。 ・本時の目標を達成しよう。 ・本時の目標を達成しよう。 ・本時の目標を達成しよう。	自分から伝えている。(作業の様子) (主体的に学習に取り組む態度)

5 本時のねらい

分からないことがあるときには、挙手をして教師に伝えることができる。
正しい手順を理解して、編み目が均一になるように丁寧に製作することができる。
うまく作業が進まないときに自分から仲間を助けて解決し、時間いっぱい前向きに取り組むことができる。
一つの工程を終えるごとに報告をし、手順を守って製作することができる。

6 本時の展開(33/53) Bチーム:フォトフレーム(T2) ★リーダー

時間 学習内容

時間	学習内容	準備・出勤・挨拶をする。 ・自分の出勤札を裏返し、出勤の挨拶をして入室する。	自分の必要な材料、道具を準備する。 ・みだしなみをチェックする。	授業開始の挨拶を行う。 ・一工程ずつ報告を忘れずにして、手順をよく見ながら作る。
00	1 課題をつくる展開 ○前時のふりかえりで記入した「次のめあて」を見直す。	自分の製品と工程表を見比べ、本時の手順から始めるのかを一緒に確認する。	工程表をよく確認しながら、すき間がないように丁寧に組もう。	・本時の作業手順を確認してから活動に入るよう言葉掛けする。 ・工程表に報告マークをつけ、報告のタイミングを視覚的に示す。 ・手順を守らず間違えた場合は一旦見守り、相談時に工程表と照らし合わせて伝えるようにする。 ・リーダーとして主体的に動けた姿を価値付け、意欲を持続させる。 ・G(2年)が困っている様子があれば、言葉掛けを促す。
5	2 追究、交流などの展開 ○作業に取り組む。	自分の製品と工程表を見比べ、本時の手順から始めるのかを一緒に確認する。	・本時の作業手順を確認してから活動に入るよう言葉掛けする。 ・組む工程の前に、均一な編み目の見本を提示し、1ミリの幅を視覚的に捉えらるるようにする。 ・編み目が整わないときには、I(3年)にコツを聞いてみることを促す。 ・組み終えたところで、自分の製品と見本を見比べ、編み目を確認するよう促す。	・前時つまずいた箇所と解決方法を想起させ、相談するときの話型を確認する。 ・つまずいたときに自分で工程表を確認する姿やI(3年)に相談する姿があれば即時評価する。 ・前向きな学習姿勢を持続させられるよう、こまめに進捗の見届けと価値付け、つまずきの把握をする。 ・本時どのような問いかけをする。
20	3 深める展開 ○お互いの製品を見合い、アドバイスを。 ○アドバイスを意識しながら作業を再開する。	自分の製品と工程表を見比べ、本時の手順から始めるのかを一緒に確認する。	・本時の作業手順を確認してから活動に入るよう言葉掛けする。 ・組む工程の前に、均一な編み目の見本を提示し、1ミリの幅を視覚的に捉えらるるようにする。 ・編み目が整わないときには、I(3年)にコツを聞いてみることを促す。 ・組み終えたところで、自分の製品と見本を見比べ、編み目を確認するよう促す。	・前時つまずいた箇所と解決方法を想起させ、相談するときの話型を確認する。 ・つまずいたときに自分で工程表を確認する姿やI(3年)に相談する姿があれば即時評価する。 ・前向きな学習姿勢を持続させられるよう、こまめに進捗の見届けと価値付け、つまずきの把握をする。 ・本時どのような問いかけをする。
40	4 学習を振り返る活動 ○グループで、本時の頑張りを一人発表する。 ○自己の活動を振り返り、自己評価をする。 ○全体で本時の出来高を確認する。	自分の製品と工程表を見比べ、本時の手順から始めるのかを一緒に確認する。	・本時の作業手順を確認してから活動に入るよう言葉掛けする。 ・組む工程の前に、均一な編み目の見本を提示し、1ミリの幅を視覚的に捉えらるるようにする。 ・編み目が整わないときには、I(3年)にコツを聞いてみることを促す。 ・組み終えたところで、自分の製品と見本を見比べ、編み目を確認するよう促す。	・前時つまずいた箇所と解決方法を想起させ、相談するときの話型を確認する。 ・つまずいたときに自分で工程表を確認する姿やI(3年)に相談する姿があれば即時評価する。 ・前向きな学習姿勢を持続させられるよう、こまめに進捗の見届けと価値付け、つまずきの把握をする。 ・本時どのような問いかけをする。
50	・材料、道具を片付ける。 ・授業の挨拶をする。	・出勤札を裏返し、出勤の挨拶をして退室する。	・正しい手順を理解して、編み目が均一になるように丁寧に製作している。(作業の様子、製品)(知識・技能)	・一つの工程を終えるごとに報告をし、手順を守って製作している。(作業の様子)(知識・技能)

評価規準

分からないことを、挙手して自分から教師に聞いている。(作業の様子)(思考・判断・表現)

うまく作業が進まないときに自分から仲間を助けて解決し、時間いっぱい前向きに取り組んでいる。(作業の様子、交流の様子)(主体的に学習に取り組む態度)

一つの工程を終えるごとに報告をし、手順を守って製作している。(作業の様子)(知識・技能)

特別支援教育 自立活動指導案

- 1 単元名 「仲間と協力して体幹トレーニングをしよう」
1－(5) ・ 3－(1) ・ 6－(5)

2 単元設定の理由

(1) 単元の捉え方

自立活動の年間計画を立てるにあたり、まずは生徒の実態と特性を把握し、その要因を改善して克服するための指導内容を考えた。

次に、単元を考える際に身に付けたい力が年間を通じて総合的に定着するように、以下を重視して本単元を計画した。

- | |
|--|
| 1 健康の保持 (5) 健康状態の維持・改善に関すること。 |
| 3 人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。 |
| 6 コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。 |

知的学級に在籍する生徒において、上記の項目の力が実際の生活で伴わない部分が多く、年間を通じて上記の力の定着を目指す。そして、個々の力を身に付けながら、更に高めていく能力を目指すことを目標とする。

このように、体幹トレーニングを行うことによって、怪我の予防や筋力の向上につなげ、また他者との適切なコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができる。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

毎時間、自分の前時の振り返りから自己の課題を設定して、体幹トレーニングを行う。体幹トレーニングは個に合った体幹トレーニングを個別、またはペアにて活動を進める。視覚支援が必要な生徒が大半であるため、達成するための手立て(手本)を実際に提示したり、ペア交流を通して客観的に見せたりして進めていく。また、段階を経て行うため、ラジオ体操もその一環で活動に取り入れ、一つ一つの動作についても使用部位の効果を頭で考えながら活動を進めていく。そして、道具を取り入れたストレッチも行い、体幹トレーニングと同様にペア交流をしてコミュニケーションのスキルにもつなげたいと考えている。

自立活動の中で少しずつ、個の苦手なことや得意なことをのばしていけるよう実践していく。

3 本時のねらい

氏名	本時のねらい	区分・項目
	・運動への意欲を高め日常生活の中で体を動かすことを取り入れようすることができる。	1-(5)
	・仲間と協力して活動することができる。	3-(1)
	・運動への意欲を高め日常生活の中で体を動かすことを取り入れようすることができる。	1-(5)
	・他者からの働き掛けを受け止め自分の活動に取り入れることができる。	3-(1)
	・運動への意欲を高め日常生活の中で体を動かすことを取り入れようすることができる。	1-(5)
	・自分の学びやつまずきを他者と共有しようすることができる。	3-(1)
	・仲間と協力して活動することができる。	3-(1)
	・相手の状況や場に応じた適切なコミュニケーションをとることができる。	6-(5)
	・他者からの働き掛けを受け止め自分の活動に取り入れることができる。	3-(1)

4 本時の展開(6/6)

時間	学習内容	日常生活でもできそうな動きを見つけよう。	仲間と協力して運動しよう。	日常生活でもできそうな動きを見つけよう。	自分の動きに仲間のアドバイスをとり入れよう。
00	1. 課題をつくる展開 ○前時までの自分の姿から自己の課題を確認する。 ○体幹、コミュニケーションの必要性の再確認をする。 ・体幹を鍛えることで怪我の防止につながる。 ・姿勢がよくなる。				
	課題 仲間と協力して体幹トレーニングをしよう。				
10	2 追究、交流、展開 ○準備運動をする。 ・体操 ・使用部位のストレッチ				
15	○ボールを使ったトレーニング(二人一組)をする。(5分間) ・両手でボールをもった状態で立つ、座る。 ・二人の背中でボールを挟んだ状態で立つ、座る。 ・ラダーを使って二人一組のバランストレーニング	・仲間と連携して正しく準備運動ができるよう言葉を掛ける。 ・苦手なトレーニングに対して「やらない」と言い出した時に負担を減らして「やらない」をなくす。 ・自己選択できるように自己を見つめる時間をつくる。 ・何度も挑戦している姿が見られたら全体で価値付ける。	・動きがわからず困っている時に、周りを見てやるよう言葉をかける。 ・指示を可視化して常に意識できるようにする。 ・選択肢を可視化してどの種目をどのくらいやるのか自己選択させる。 ・仲間と協力して活動ができた時に価値付ける。 ・苦手な種目でも難易度を下げてスモールステップで取り組めるようにする。	・仲間と連携して正しく準備運動ができるように言葉进行をかける。 ・できなかった時に固まらずに最後までやり切れるように負担を減らす。 ・自己選択ができるように自己を見つめる時間をつくる。 ・振り返り時に自分のレベルを理解して難易度を考えられるように選択肢を提示する。	・正しい体の動かし方を師範で見せながら行う。 ・苦手とするトレーニングでも師範を見せながら適切に行えるように寄り添う。 ・自分の体力に合ったトレーニングを選択できるように一緒に考える。 ・苦手な種目でも難易度を下げてスモールステップで取り組めるようにする。
35	3 深める展開 ○中間交流会をする。				
40	○自分の課題を考えてプラスワントレーニングを行う。 生徒の発言やノートの内容 ・私は腹筋が弱いからもうセット両手でボールをもった状態で立つ、座るトレーニングを行います。 ・僕は力加減が難しいから二人の背中にボールを挟んだ状態で立つ、座るトレーニングを行います。				
50	4. 学習を振り返る活動 ○自己の課題を振り返り、iPad に記入する。 ○振り返りを抽出して発表する。	評価規準 日常生活の中で運動を取り入れることについて語っている。 1-(5)	評価規準 仲間と協力して運動しようとしている。 3-(1)	評価規準 日常生活の中で運動を取り入れることについて語っている。 1-(5)	評価規準 仲間の意見やアドバイスを聞き入れて活動に生かしている。 3-(1)

4 本時の展開(6/6)

時間	学習内容	日常生活でもでき そうな動きを見つ けよう。	仲間へアドバイスし 合おう。	仲間と協力して運 動しよう。	相手をよく見てや べきことを考えよ う。	自分の動きに仲間の アドバイスをとり入れ よう。
00	1 課題をつくる展開 ○前時までの自分の姿から自己の課題の確認をする。 ○体幹、コミュニケーションの必要性の再確認をする。 ・体幹を鍛えることで怪我の防止につながる。 ・姿勢がよくなる。					
課題	仲間と協力して体幹トレーニングをしよう。					
10	2 追究、交流、展開 ○準備運動をする。 ・体操 ・使用部位のストレッチ	・自分の課題をiPad で見えるようにす る。 ・各準備運動がどの 部位を伸ばしている のか理解できるように 問いかける。	・各準備運動がどの 部位を伸ばしている のか理解できるように 問いかける。 ・できないことも粘り 強く活動ができるよ うにあらためかけた 時に言葉をかけて 自分の課題に向き 合えるように課題か ら連想されるトレ ーニング法を提示す る。 ・自己課題を理解し て周りに自信をもっ て伝えられるよう にする。	・仲間と連携が取れ た時に価値を認め て、最後まで活動に 通しをもちよう。 ・ホワイトボードに本 時の内容を書いて おく。 ・自分の体力に合わ せてトレーニングの 負荷を調整できるよ うに選択肢を提示 する。	・各準備運動がどの 部位を伸ばしている のか説明をしながら 行う。 ・周りをみて行動する ことができた時に価 値付ける。 ・見通しをもって活動 できるようにホワイ トボードに本時の内 容を書いておく。 ・自分の生活を見直 し、取り入れること ができるような種目 を選び計画を立てる ことができるように プリントを用意する。	・自己課題が常にわ かるようにiPadに 貼っておく。 ・各準備運動がどの 部位を伸ばしている のか説明をしながら 行う。 ・正確に体を動かす ことができた時に価 値付ける。 ・仲間の意見をとり 入れて日常生活の 計画を立てることが できるように例を提 示する。 ・水分補給をこまめに 取るよう言葉をかけ る。
15	○ボールを使ったトレーニング(二人一組)をする。 (5分間) ・両手でボールをもった状態で立つ、座る。 ・二人の背中でボールを挟んだ状態で立つ、座る。 ・ラダーを使って二人一組のバランストレーニング	・自分の体力や身体 機能に対して自己 見つけがでるよう に日常生活の様子 を一緒に振り返る。				
35	3 深める展開 ○中間交流会をする。					
40	○自分の課題を考えてプラスワントレーニングを行う。					
・生徒の発言やノートの内容 ・私は腹筋が弱いからもう一セット両手でボールをもった状態で立つ、座るトレーニングを行います。 ・僕は力加減が難しいから二人の背中にボールを挟んだ状態で立つ、座るトレーニングを行います。						
4	学習を振り返る活動					
50	○自己の課題を振り返り、iPadに記入する。 ○振り返りを抽出して発表する。	評価規準 ・日常生活の中で動作を 取り入れることについ て話している。 1-(5)	評価規準 ・自分の学びやつまづき を他者と共有しようとし ている。 3-(1)	評価規準 ・仲間と協力して活動し ている。 3-(1)	評価規準 ・相手の状況や場に応じ た適切なコミュニケーション をとっている。 6-(5)	評価規準 ・仲間の意見やアドバイ スを聞き入れて活動に生 かしている。 3-(1)